

# 西伊豆町SS過疎地対策計画

令和2年2月

静岡県西伊豆町

# 目次

はじめに	・・・ 2
1. 地域の現状	・・・ 5
2. 地域の燃料供給体制の現状	・・・15
3. 地域の燃料需要及びニーズ	・・・18
4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策	・・・32
5. 燃料供給体制維持のアクションプラン	・・・47

## 地域の概況と計画策定の背景

### ● 地域の特性

西伊豆町は、静岡県東部、伊豆半島西海岸のほぼ中央に位置し、東側は天城連山、西側は駿河湾に面し、面積の約8割が森林となっている。

産業は、昭和35年頃までは、第一次産業である農林水産業を中心に栄えてきたが、現在では、美しい自然景観や温泉などの資源を生かした観光業が主要となっている。

### ● 燃料供給をめぐる当町の現状とSS過疎地対策計画策定の趣旨

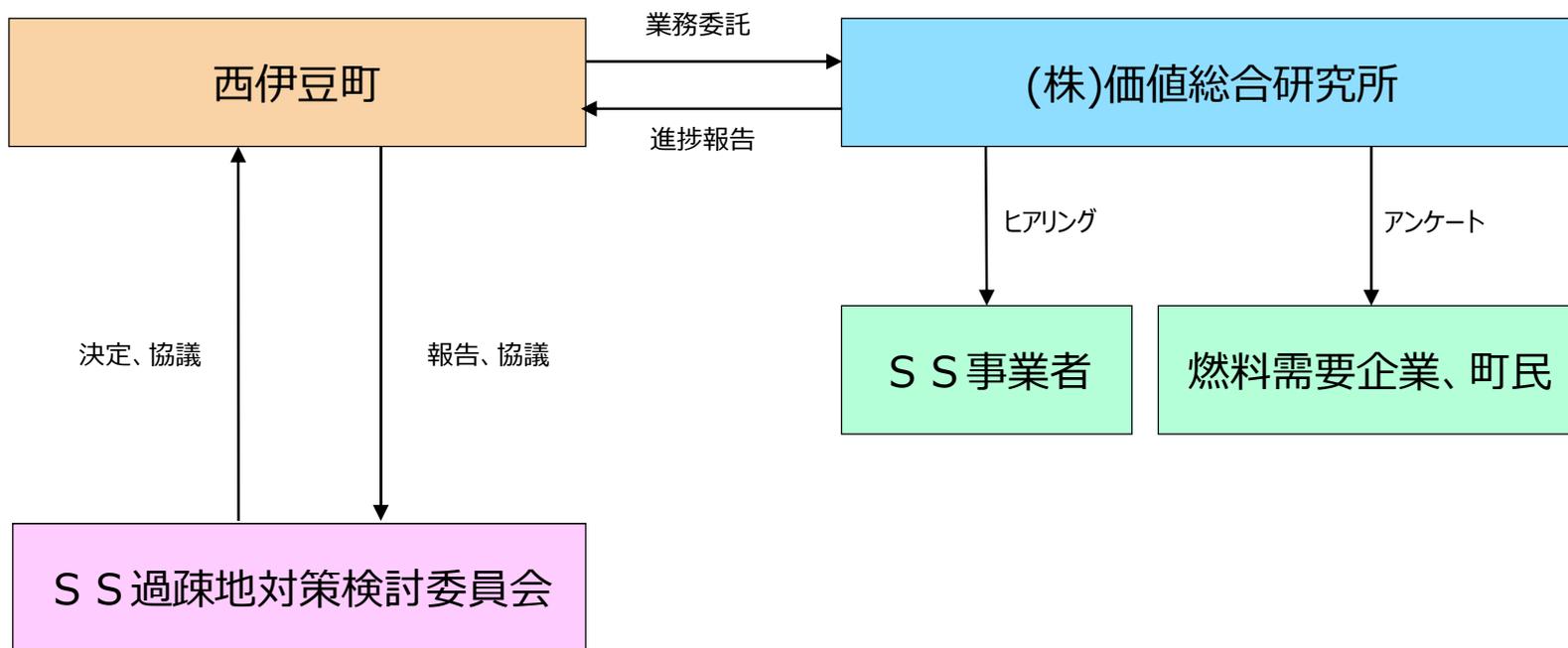
近年、都市部への就職や主要産業であった農林水産業の低迷などにより人口が減少してきており、高齢化も進んでいる。

これらにより、町内の燃料需要は減少し、かつて町内には9箇所あったSSが、現在は3箇所まで減少している。地区別にみると、宇久須地区に1箇所、仁科地区に2箇所であり、他の3地区にはSSがない状態となっている。

また、現在営業している3箇所のSSについても、人口減少に伴う燃料の需要量減少や施設の老朽化など避けられない課題に今後直面することが考えられ、官民が協力し将来にわたる燃料の安定供給について検討する必要がある。

さらに当町は、南海トラフ地震が発生した際には、津波や土砂崩れなどにより主要道路が寸断され、物資の支援を受けられるようになるまでに数日かかることが想定されている。こうした際、道路啓開を行う重機などの車両への燃料供給が必要となるが、現在営業しているSSは、予想されている津波浸水区域内にあり、災害時に使用可能な燃料の確保も必要となっている。

このような現状や将来を考えるに当たり、SS過疎地となった当町として、将来の燃料供給体制をどのように維持・確保していくか、全町的視点から検討していくため、SS過疎対策計画を策定するものである。



## 西伊豆町SS過疎地対策検討委員会委員名簿

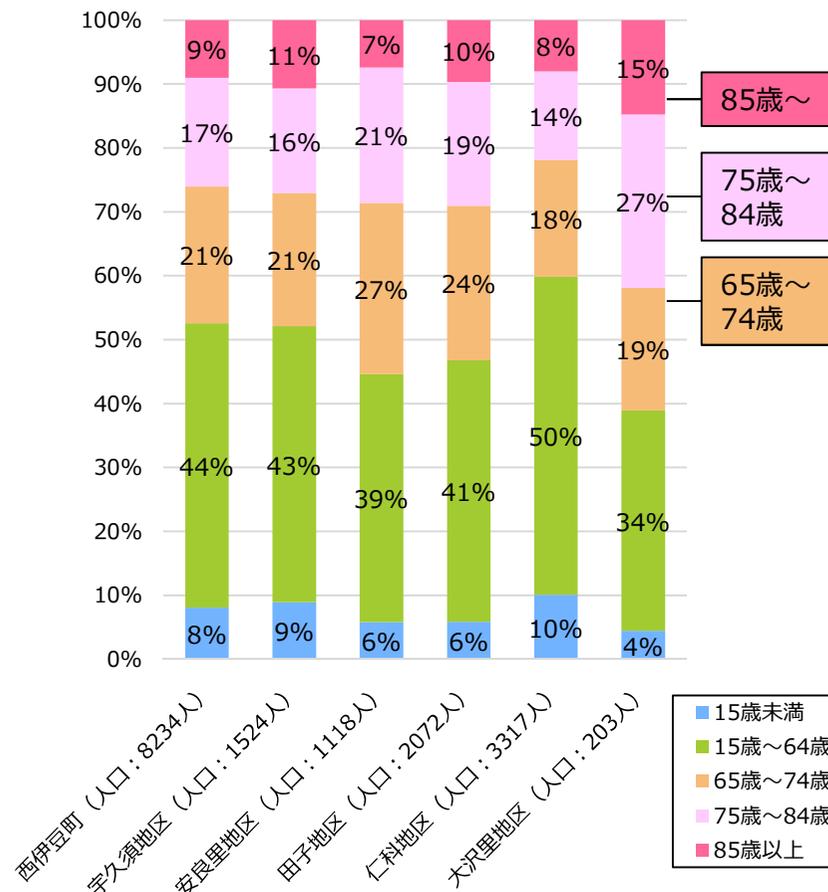
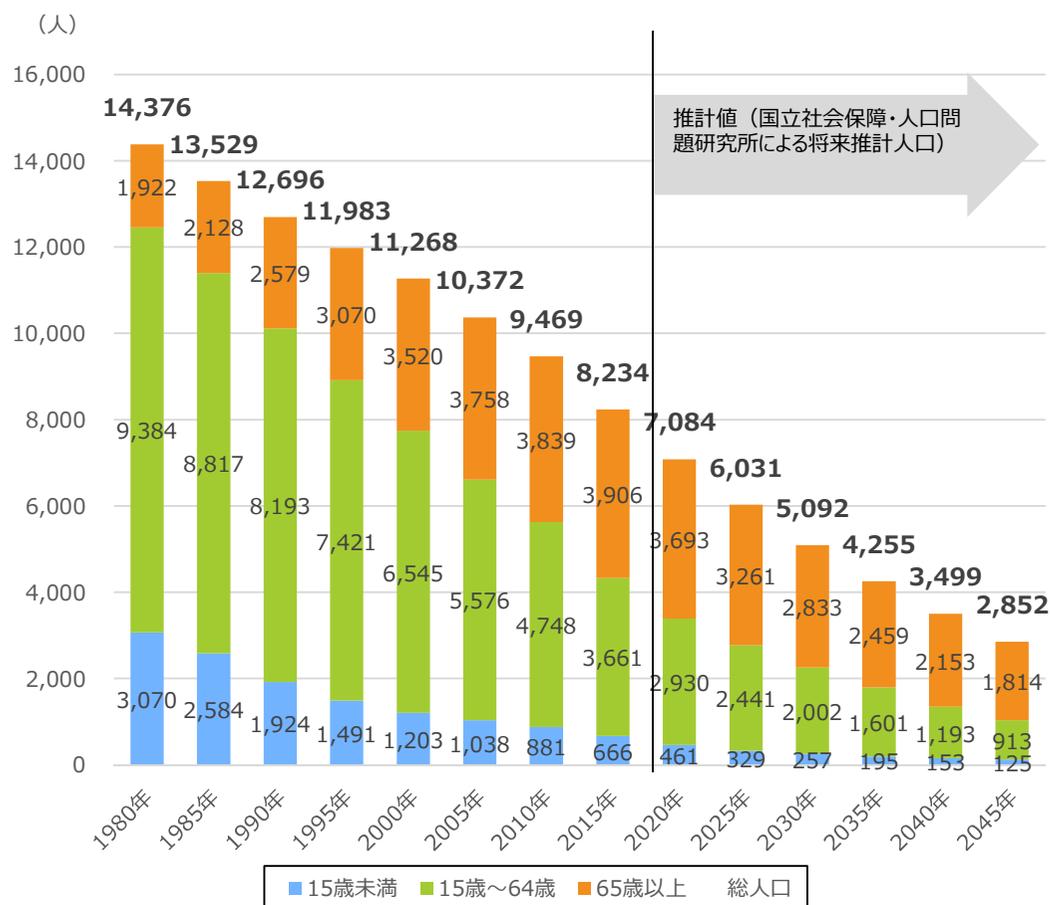
No	氏名	摘要
1	星野 淨晋	西伊豆町長
2	里見 祐好	下田消防署西伊豆消防署長
3	泉地 繁之	下田警察署松崎担当次長
4	国本 正徳	西伊豆町建設組合
5	芹澤 恵支	西伊豆町管工事工業組合
6	塩澤 一志	西伊豆町観光協会
7	(国本 正徳)	西伊豆町商工会
8	由井 吉一	静岡県石油業協同組合専務理事
9	山地 清志	町民防災会議第1ブロック会長
10	藤井 文憲	町民防災会議第2ブロック会長
11	椿 素雄	町民防災会議第3ブロック会長
12	高井 廣	町民防災会議第4ブロック会長
13	平馬 栄	町民防災会議第5ブロック会長
14	藤井 泰範	有限会社ニドー仁科SS
15	佐藤 文彦	有限会社ろ屋商店
16	藤井 隆人	丸宇興業株式会社給油部
17	佐藤 清岳	伊豆太陽農業協同組合西伊豆地区統括支店長
18	槇野 隆夫	伊豆漁業協同組合西伊豆統括支所長
19	佐久間 明成	総務課長
20	大谷 きよみ	まちづくり課長
21	松本 正人	産業建設課長
22	長島 司	防災課長

(オブザーバー)  
 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課

# 1. 地域の現状

## (1) 人口

- 西伊豆町の人口は減少傾向が続いており、今後も減少が進む見通しとなっている。
- 2015年国勢調査時点で、町全体の高齢化率は47%だが、大沢里地区で60%を超えているほか、安良里地区、田子地区も50%を超えており、これらの地区では75歳以上人口の割合も高い。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 ※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

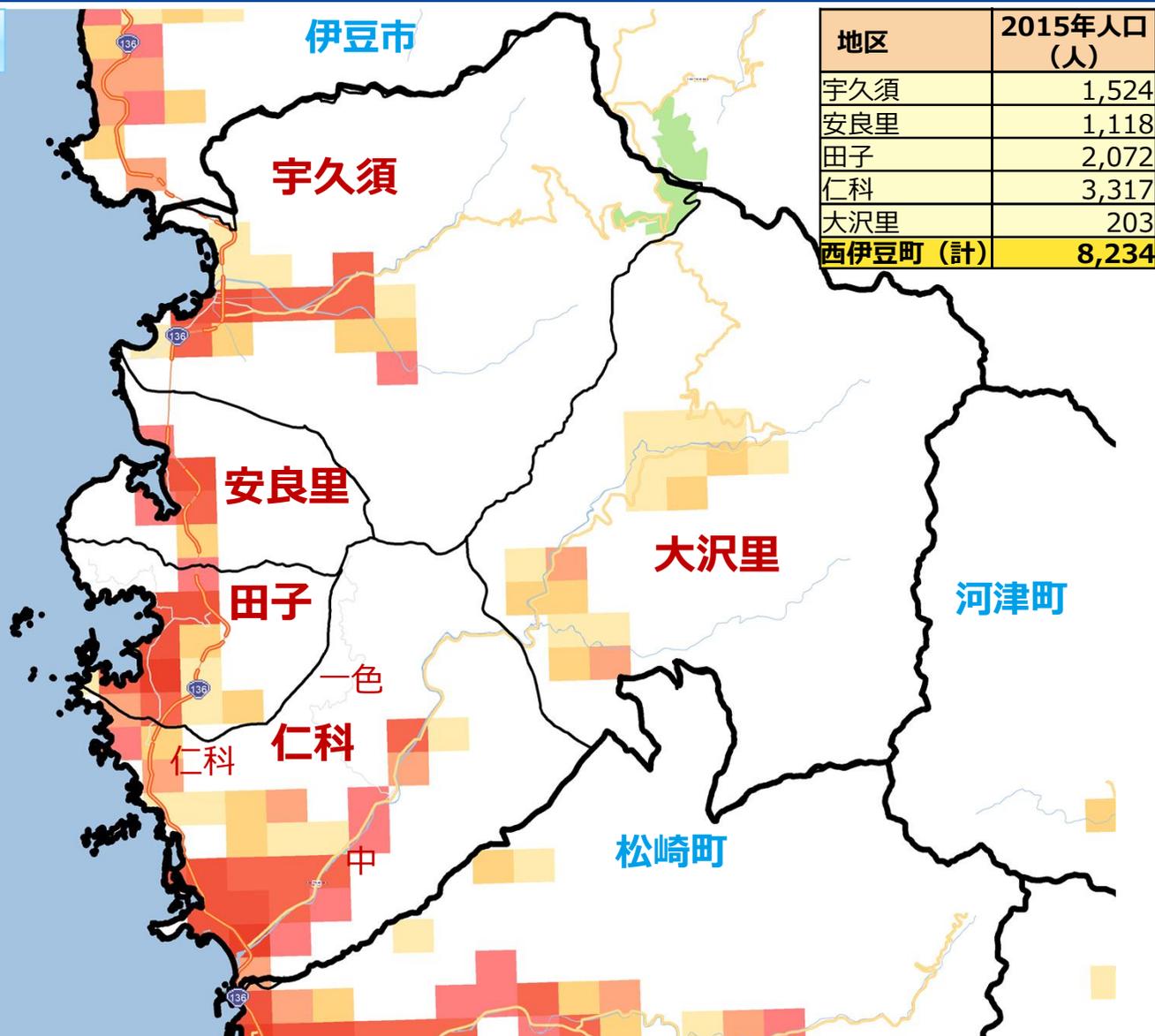
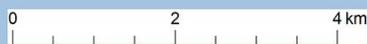
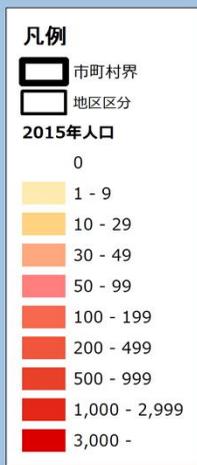
出典：総務省「国勢調査報告」※  
 割合は年齢不詳者を除く

# 1. 地域の現状

## (2) 人口分布

### 人口分布（2015年）

- 西伊豆町の人口は、海岸沿い（国道136号沿い）に比較的集中している。
- 宇久須地区、仁科地区は、海岸部から内陸に向かう県道沿いにも集落が分布している。



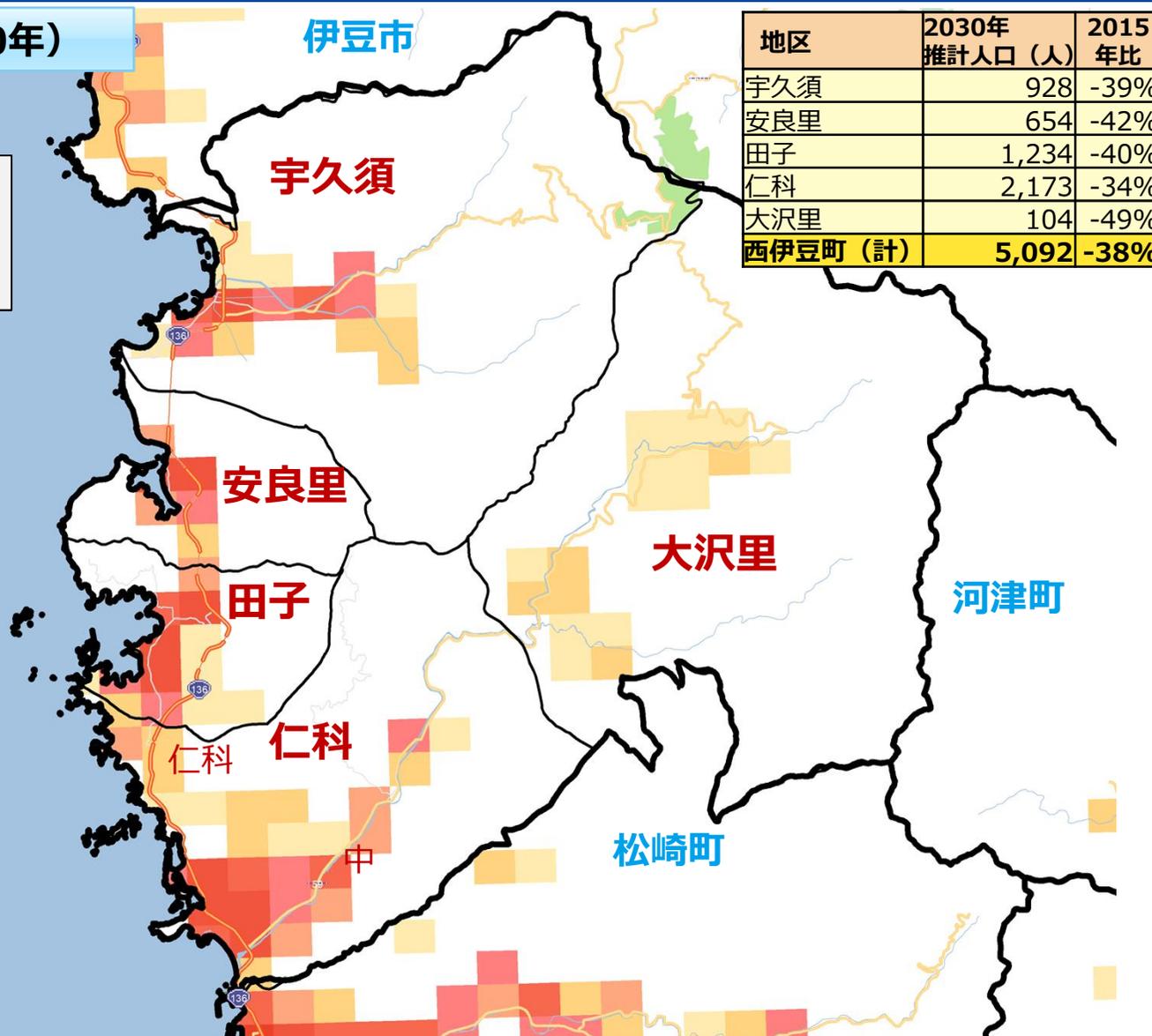
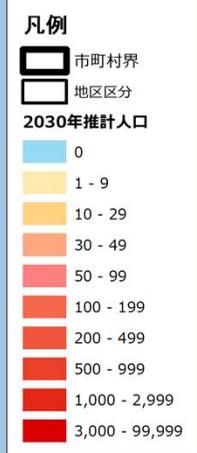
出典：総務省「国勢調査」

# 1. 地域の現状

## (3) 将来人口分布

### 将来推計人口分布 (2030年)

- 将来推計人口の分布をみると、無居住地区は見られないが、全町的に人口は減少する見通しとなっている。



地区	2030年推計人口 (人)	2015年比
宇久須	928	-39%
安良里	654	-42%
田子	1,234	-40%
仁科	2,173	-34%
大沢里	104	-49%
<b>西伊豆町 (計)</b>	<b>5,092</b>	<b>-38%</b>

出典：総務省「国勢調査」

# 1. 地域の現状

## (4) 世帯数

- 西伊豆町の一般世帯数は3667世帯（2015年国勢調査）となっている。
- 一般世帯数のうち、高齢者のみの世帯は1530世帯で、全体の4割を超えている。また、高齢者単独世帯は755世帯で、全体の2割を超える。
- 地区別にみると、大沢里地区では、高齢者のみの世帯が6割、高齢者単独世帯が3割を占めており、他地区と比べてその割合が高い。

地区	一般世帯数	高齢者のみの世帯数	高齢者のみの世帯数の割合	高齢者単独世帯数	高齢者単独世帯数の割合
西伊豆町	3,667	1,530	41.7%	755	20.6%
宇久須地区	635	262	41.3%	119	18.7%
安良里地区	528	256	48.5%	116	22.0%
田子地区	987	470	47.6%	245	24.8%
仁科地区	1,417	482	34.0%	245	17.3%
大沢里地区	100	60	60.0%	30	30.0%

# 1. 地域の現状

## (5) 従業・通学状況

- 町民のほとんどは、昼間町内に滞在（就業・通学していない、または町内で従業・通学）している。
- 就業・通学あわせると158人の流出超過となっているが、就業者だけで見ると、11人の流入超過となっている。
- 就業者の流入・流出先を見ると、松崎町との往来が最も多く、同町とは209人の流入超過となっている。
- 一方、下田市、伊豆市とは流出超過となっており、両市あわせて200人以上の流出超過となっている。

### 通勤・通学動向（2015年）

	総数（15歳以上就業者・通学者）	15歳以上就業者	15歳以上通学者
（常住者）就業者・通学者	3,825	3,616	209
西伊豆町内で従業・通学	2,783	2,745	38
<b>他市町村で従業・通学</b>	<b>1,036</b>	<b>865</b>	<b>171</b>
（町内での）従業者・通学者	3,672	3,630	42
西伊豆町内常住者	2,783	2,745	38
<b>他市町村から従業・通学</b>	<b>878</b>	<b>876</b>	<b>2</b>
<b>流入超過</b>	<b>-158</b>	<b>+11</b>	<b>-169</b>

※従業・通学不詳者を除く  
町外で従業・通学には町外従業・通学先地域不詳を含む  
出典：総務省「平成27年国勢調査報告」

### 周辺市町との流出入（就業者・2015年）

市町	流入	流出	流入超過
沼津市	9	22	-13
三島市	5	21	-16
下田市	60	155	-95
伊豆市	69	190	-121
南伊豆町	29	13	16
松崎町	582	373	209
<b>流入超過（上記以外の市町を含む）</b>	<b>876</b>	<b>865</b>	<b>+11</b>

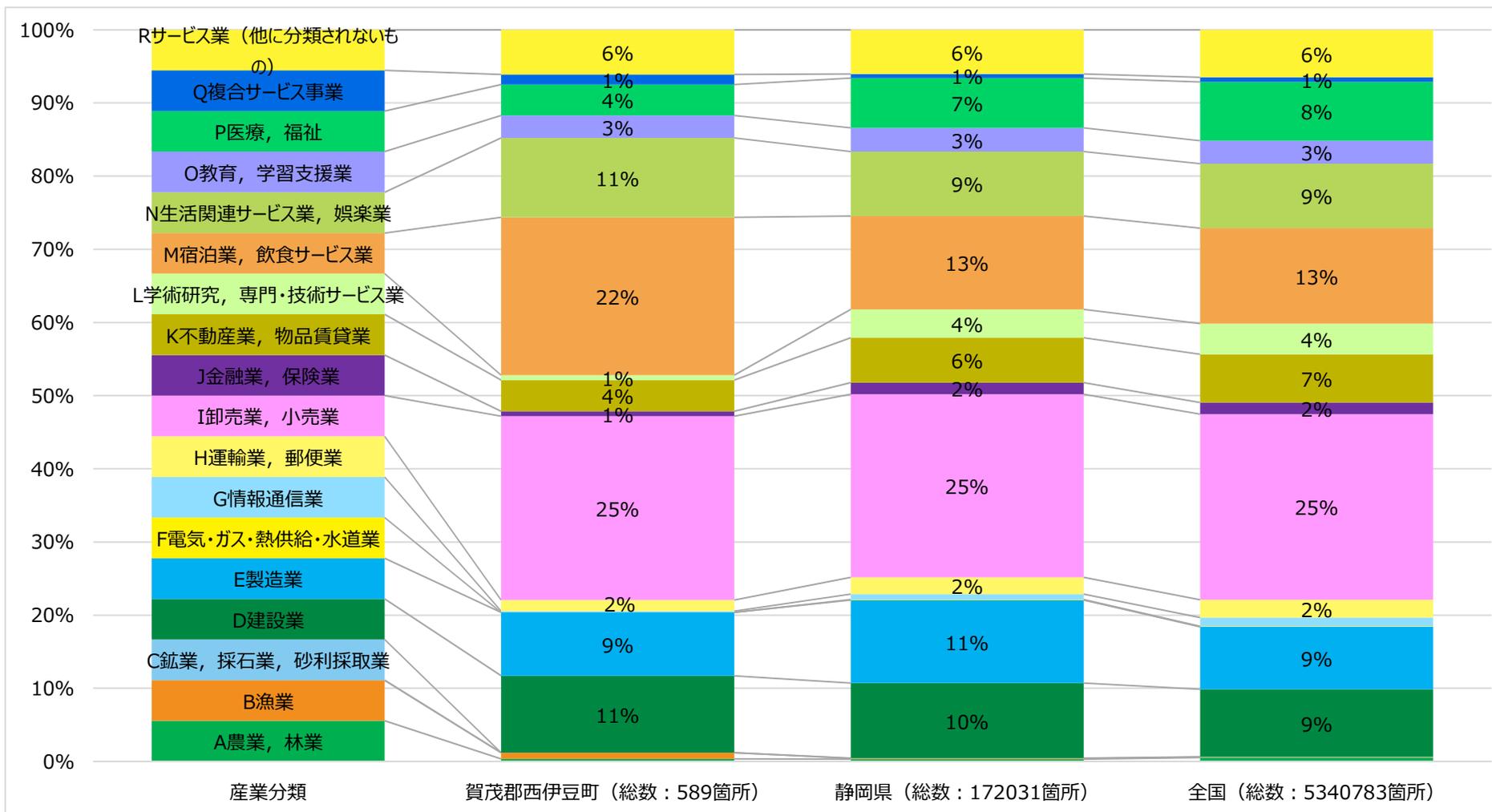
出典：総務省「平成27年国勢調査報告」

# 1. 地域の現状

## (6) 産業構造

### ①事業所数（民営）（2016年）

- 西伊豆町の民営事業所数は589事業所で、全国や県平均と比べて、特に宿泊業・飲食サービス業の割合が高い。



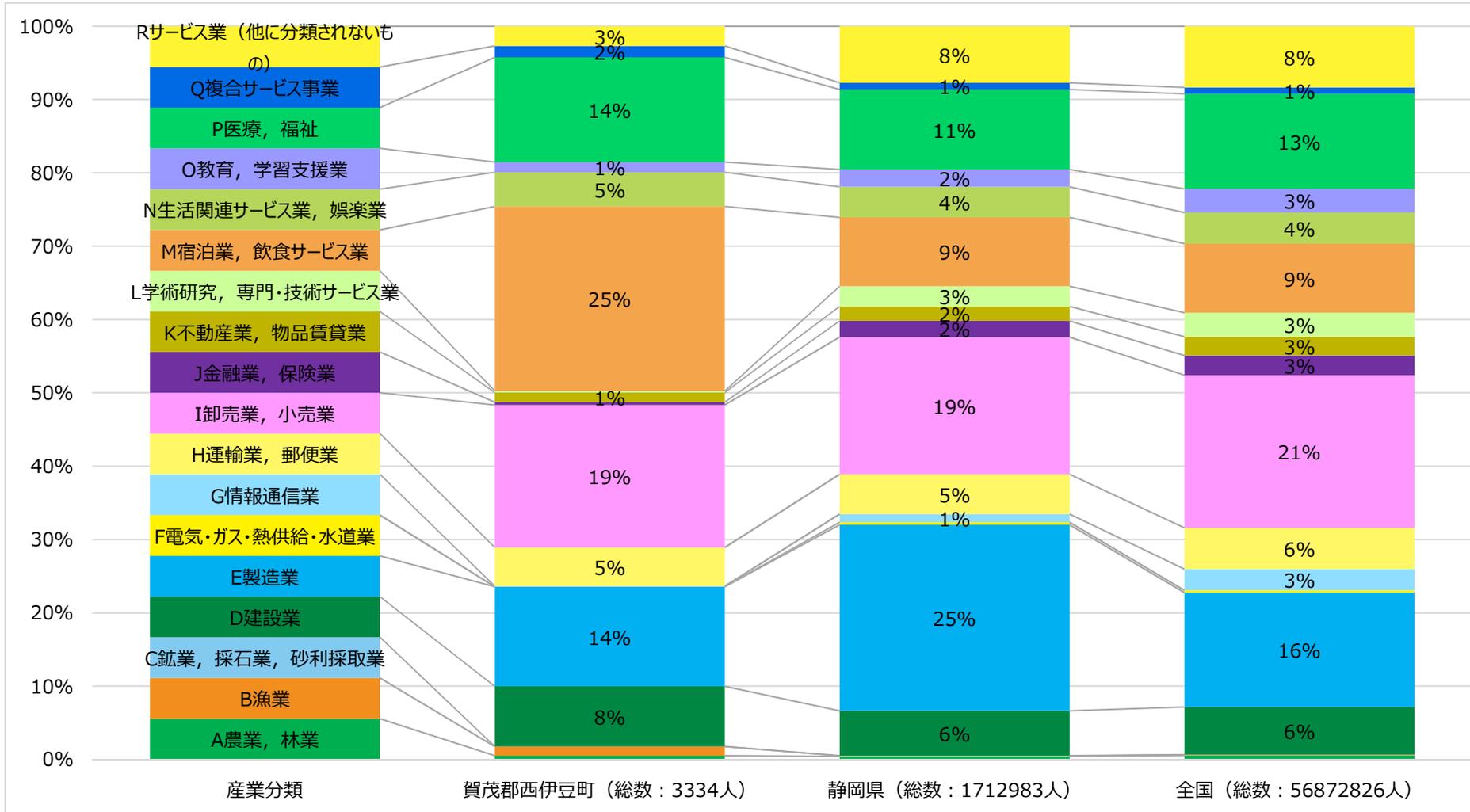
出典：総務省「経済センサス基礎調査、活動調査」

# 1. 地域の現状

## (6) 産業構造

### ②従業者数（民営事業所）（2016年）

- 西伊豆町の民営事業所での従業者数3334人で、このうち約1/4が宿泊業・飲食サービス業の従業者となっている。

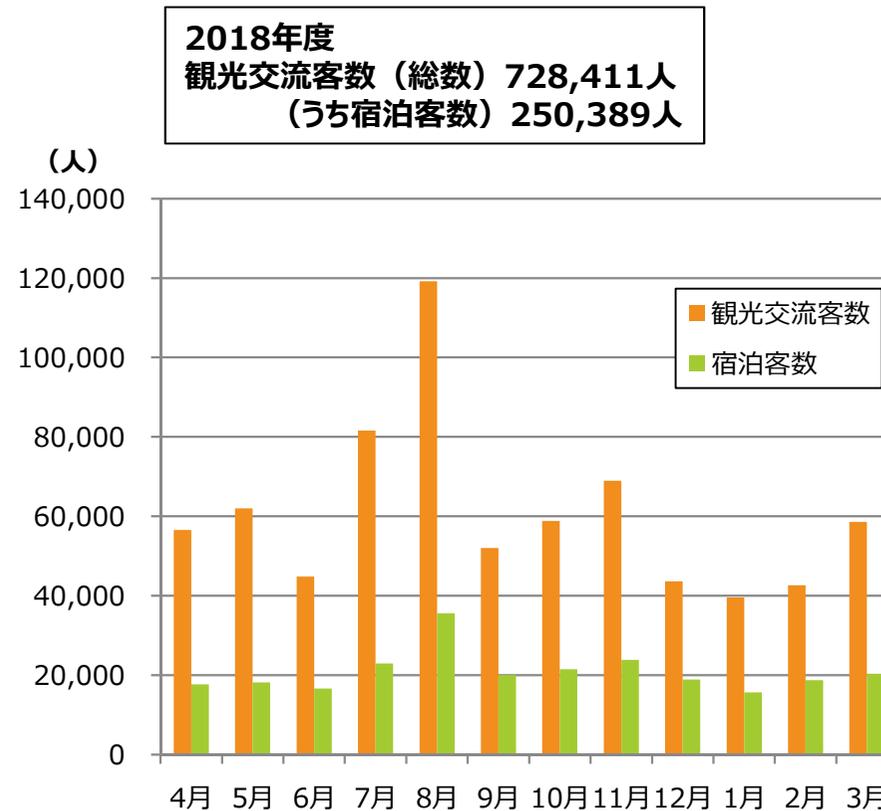
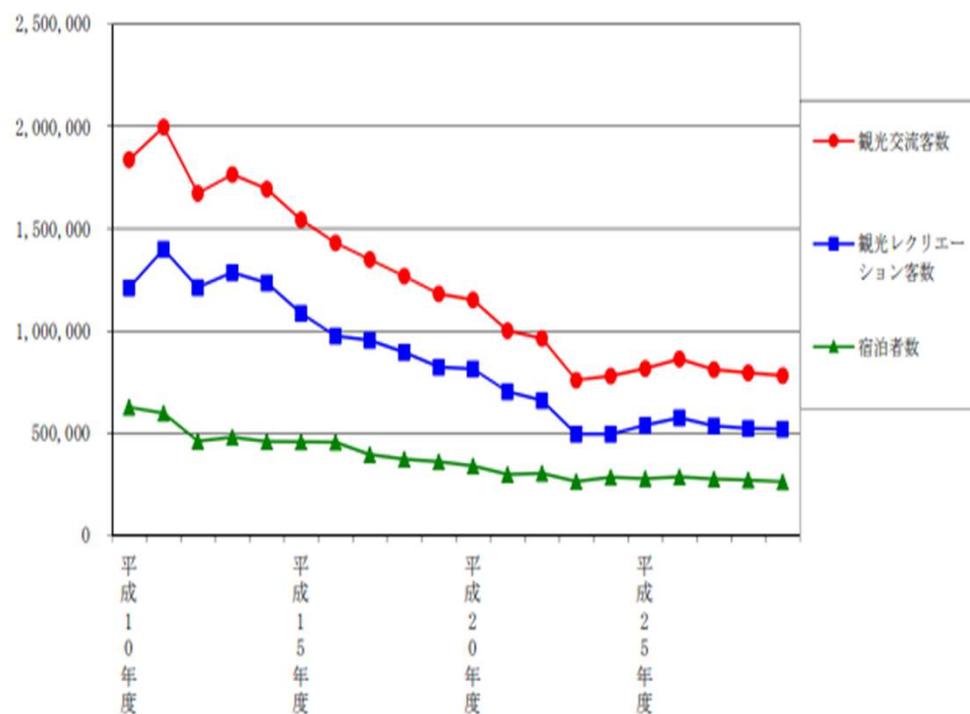


出典：総務省「経済センサス基礎調査、活動調査」

# 1. 地域の現状

## (7) 観光

- 西伊豆町は、伊豆エリア有数の観光地であり、堂ヶ島温泉をはじめとして多数の宿泊施設が立地している。
- 海水浴場も多く、特に夏季は多くの観光客が訪れている。
- 2018年度の観光交流客数は約73万人で、そのうち宿泊客数は約25万人となっている。



出典：平成30年度静岡県観光交流の動向、西伊豆町町勢概況

# 1. 地域の現状

## (8) 道路交通状況

- 町内には南北に国道136号が通じているほか、宇久須、仁科には海岸部と山間部を結ぶ県道が通じている。
- 主要道路の交通量について、2010年と2015年を比較すると、国道136号線の交通量は増加している。

### 国道136号（宇久須）

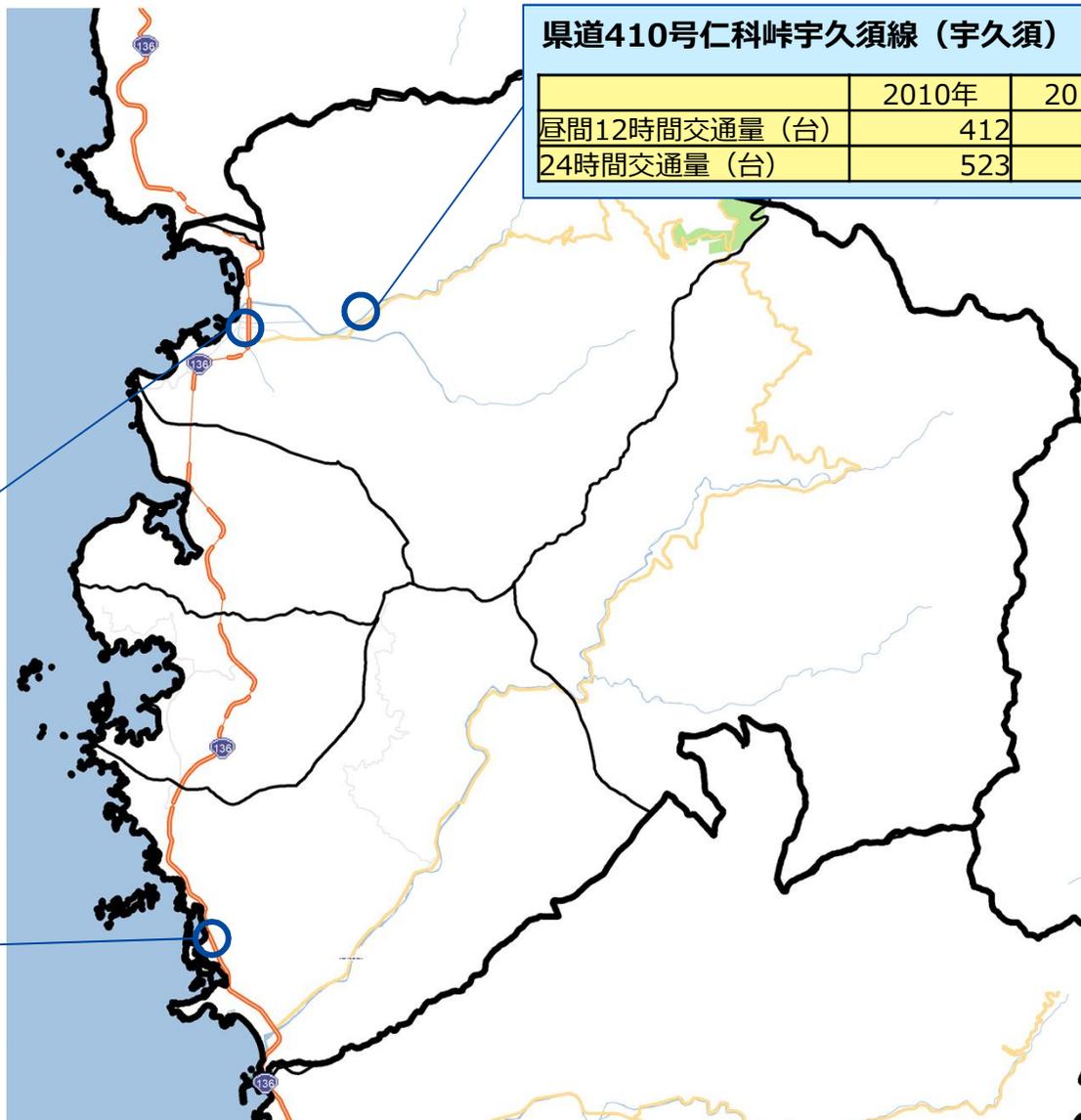
	2010年	2015年
昼間12時間交通量（台）	3,638	3,902
24時間交通量（台）	4,329	4,917

### 国道136号（仁科（堂ヶ島））

	2010年	2015年
昼間12時間交通量（台）	7,471	7,593
24時間交通量（台）	8,890	9,719

### 県道410号仁科峠宇久須線（宇久須）

	2010年	2015年
昼間12時間交通量（台）	412	377
24時間交通量（台）	523	441

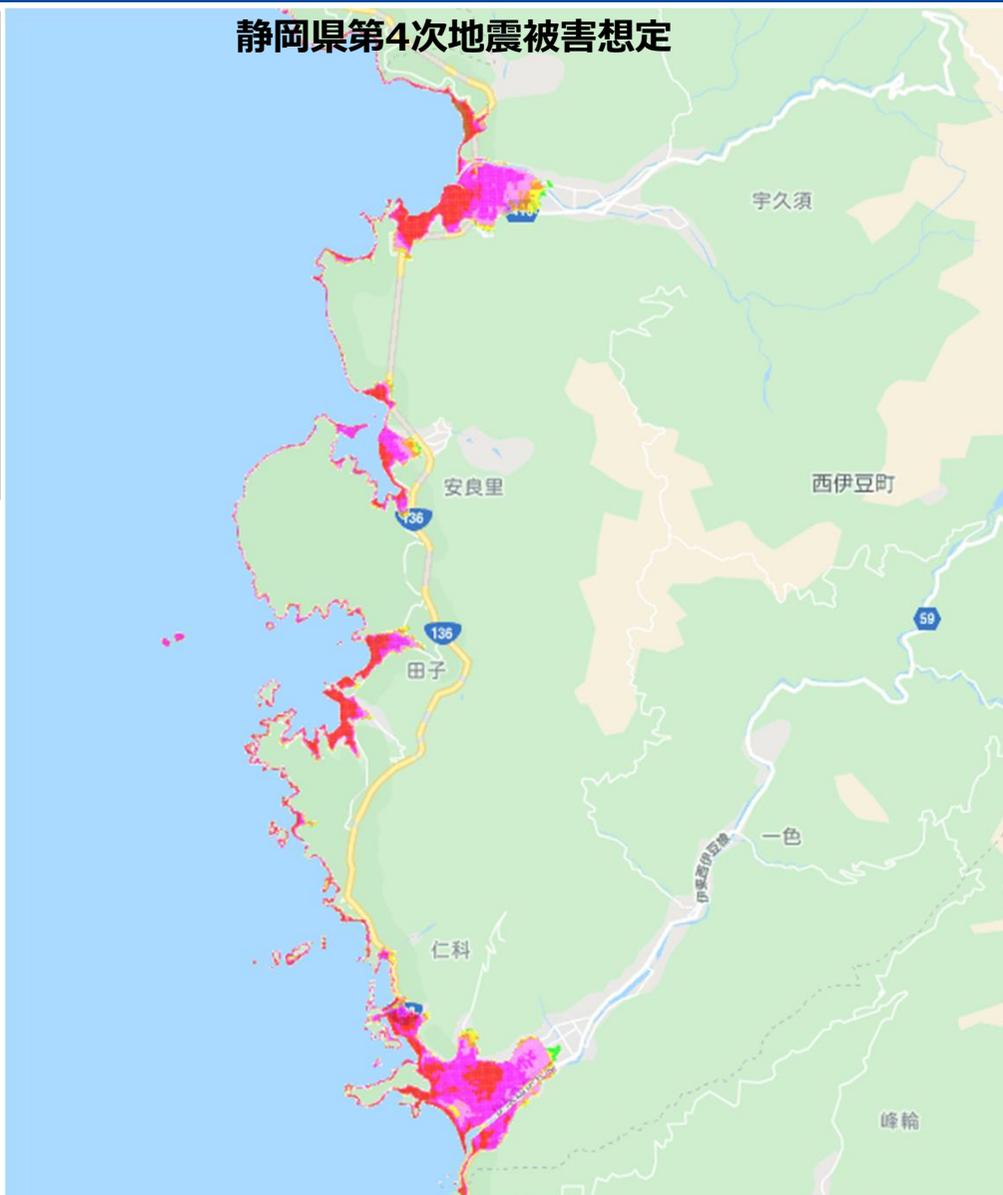


# 1. 地域の現状

## (9) 地震被害想定 (浸水想定区域)

- 西伊豆町は、「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」に規定する「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されている。
- 南海トラフ地震が発生した場合、最大高15m、浸水域2.5km<sup>2</sup>の津波が発生することが予想されている。

### 静岡県第4次地震被害想定



レベル2津波の最大浸水域重ね合わせ図

- 最大浸水深20.0m以上
- 最大浸水深10.0m～20.0m
- 最大浸水深5.0m～10.0m
- 最大浸水深3.0m～5.0m
- 最大浸水深2.0m～3.0m
- 最大浸水深1.0m～2.0m
- 最大浸水深0.3m～1.0m
- 最大浸水深0.01m～0.3m

#### 【重ね図】

○本資料は、最大クラスの津波が悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。(南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです)。

・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。

・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

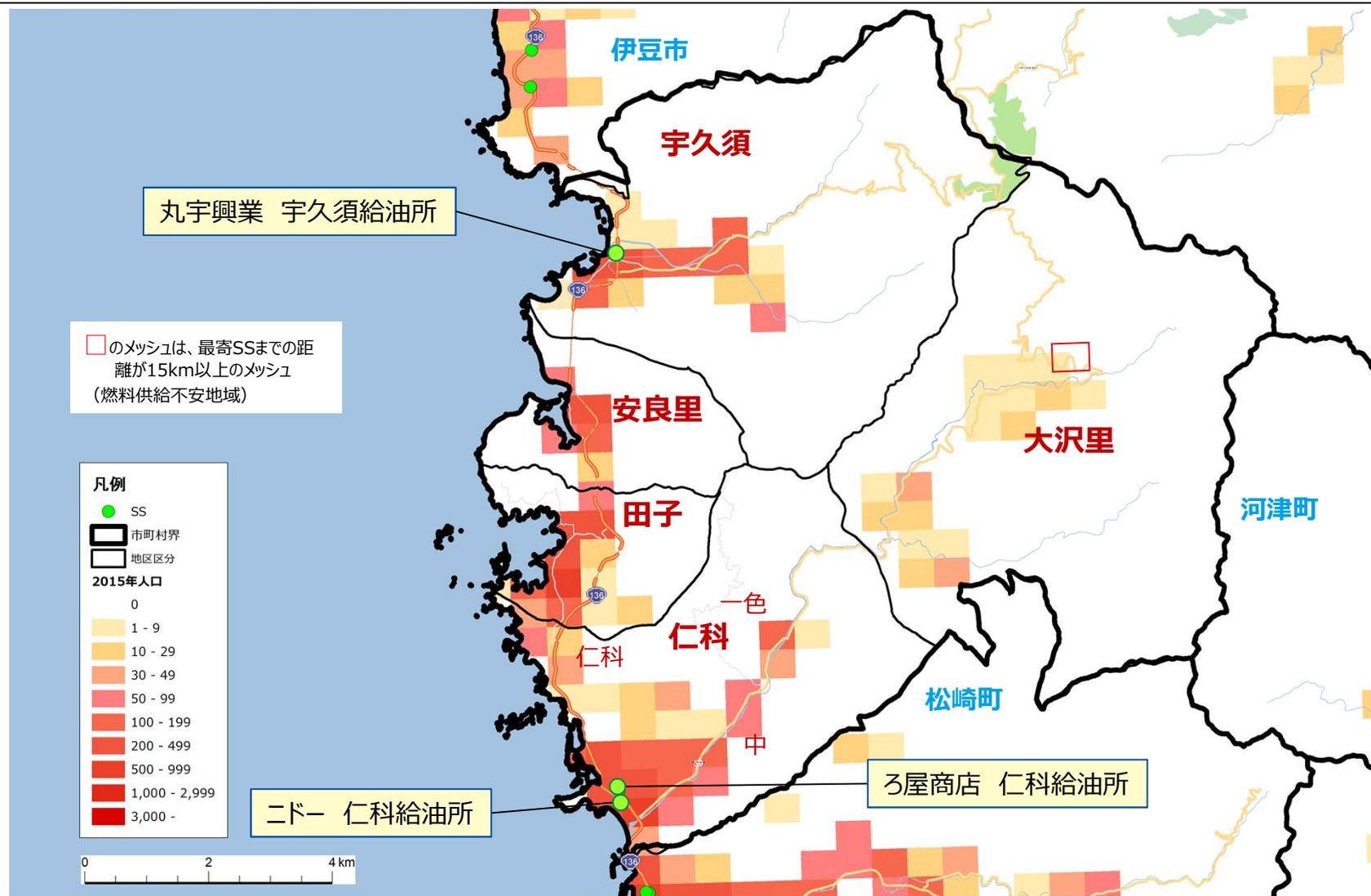
○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したのですが、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

## 2. 地域の燃料供給体制の現状

### (1) 町内のSSの立地状況

- 町内には、現在、3箇所のSSがあり、いずれも海岸沿いの集落中心部に立地している。
- 大沢里地区には、最寄SSまでの距離が15km以上の燃料供給不安地域が存在している。



## 【参考】SSの位置と災害時被害想定エリア（浸水想定エリア）の重ね図

- 既存のSSは、いずれも全て浸水想定区域に含まれている

丸宇興業 宇久須給油所

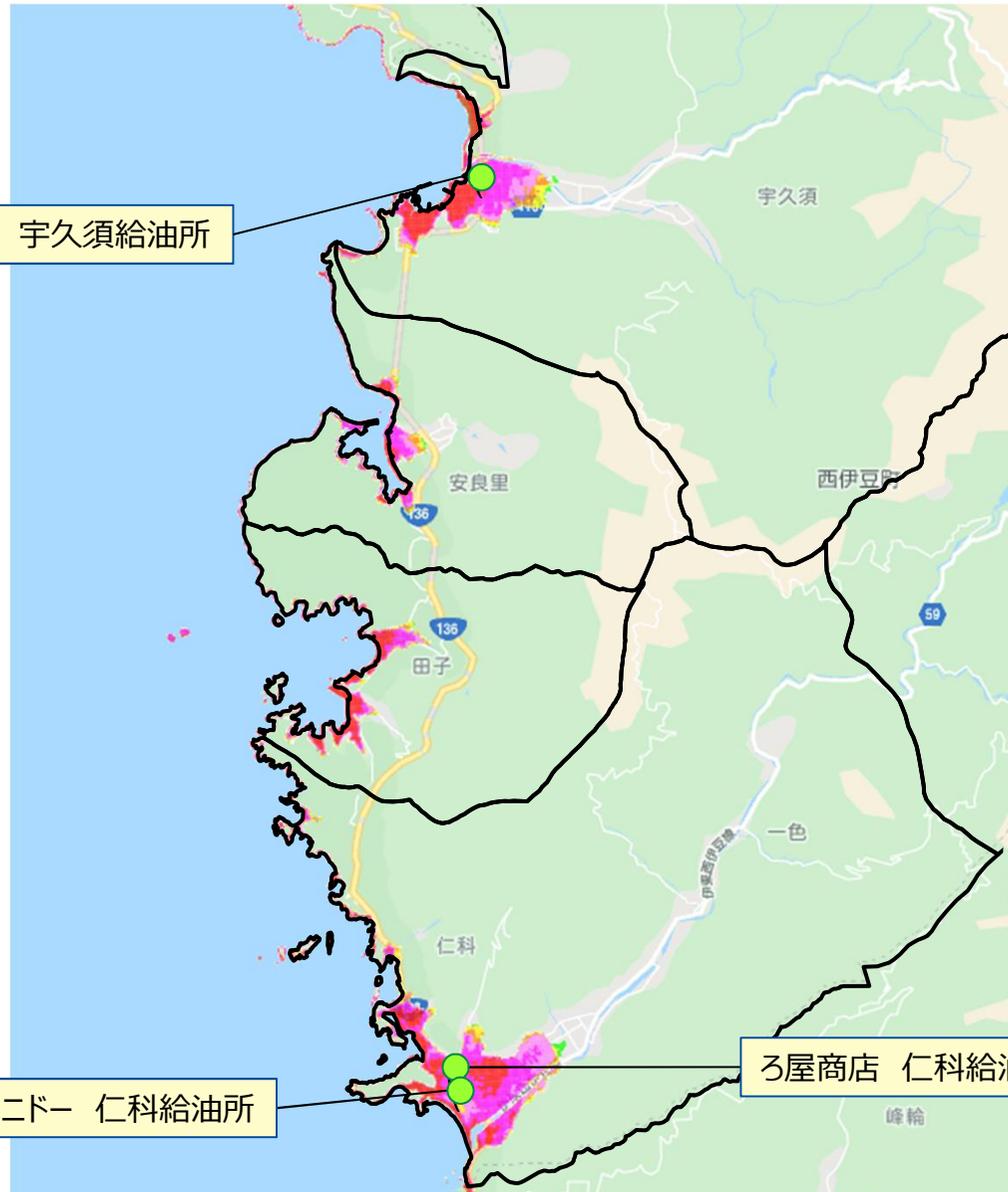
● SS

レベル2津波の最大浸水域重ね合わせ図

- 最大浸水深20.0m以上
- 最大浸水深10.0m～20.0m
- 最大浸水深5.0m～10.0m
- 最大浸水深3.0m～5.0m
- 最大浸水深2.0m～3.0m
- 最大浸水深1.0m～2.0m
- 最大浸水深0.3m～1.0m
- 最大浸水深0.01m～0.3m

ニドー 仁科給油所

ろ屋商店 仁科給油所



## 2. 地域の燃料供給体制の現状

### (2) 町内のSSの運営状況

- 町内のSS事業者の営業状況は下記のとおりであり、町内のSS事業者の販売量合計は年間約2800KLとなっている。
- いずれのSSも、地元需要家を主な顧客として営業を行っており、配達販売も行っている。
- 軽油、灯油は、店頭販売よりも配達販売のほうが多く、特に軽油は、土木建設事業者への販売も多い。
- 各SSとも、販売量については、横ばいから減少傾向としており、今後さらに減少が進むとの見通しを持っている。

#### 町内SSの営業状況

店舗名 (地区)	系列	営業日		油外営業 品目	従業員 (人)		地下タンク (KL)		タンク容量 (KL)					配達			
		定休日	営業時間		役員	社員	容量	更新等	ハイオク	レギュラー	軽油	灯油	A重油	軽油 ローリー	灯油 ローリー	主な配達 地区	スタッフ
丸宇興業 (宇久須)	エネオス	水曜日	7:00~19:00	LPガス 土木工事		5	30	H10移転 新築	10	10	10	5		1KL	500L ×2台	田子 安良里 宇久須	兼務
ニドー仁科 (仁科)	なし	火曜日	月~土(火除) 7:00~19:30 日曜日 8:00~19:00	自動車整備	1	3	90	H4に整備	10	40	14	16	10	配達なし	500L	仁科 大沢里 田子	専任
ろ屋商店 (仁科)	出光	日曜日	7:00~19:00	LPガス ガス工事 全般	1	2	10	6年前に FRPライ ニング済み	0.6	6		4		なし (ドラ ム缶)	500L	仁科 大沢里 田子	兼務

#### 町内SSの油種別、販売方法別販売量 (3事業所の合計値)

合計	ガソリン	軽油		灯油	
		店頭	配達	店頭	配達
2,772	1,929	140	173	189	341

出典：各事業者への聞き取りによる（2020年1月29日）

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (1) 町民アンケート調査の概要

- 計画策定にあたり、町民の燃料購入の状況及びニーズ等を把握するため、町内全世帯を対象としたアンケート調査を実施した。

#### アンケート調査の概要

- <対象> : 町内全ての一般世帯 (3693世帯)
- <実施時期> : 令和2年1月24日～1月31日
- <方法> : 郵送配布・郵送回収
- <回収数> : 1,780 (回収率48.5%)  
※有効回答数は、設問により異なる

#### <調査項目>

- 保有機器 (灯油使用機器、ホームタンク等)
- 油種ごとの燃料購入先、購入量
- 災害時等の燃料調達に関する不安 等

#### <地区別回答数>

※地区名無回答者、回答不明者を除く

地区	回答数	割合	
宇久須	大久須	47	2.7%
	神田	42	2.4%
	月原	57	3.2%
	下月原	40	2.3%
	浜	98	5.5%
	柴	51	2.9%
	不明	5	0.3%
	計	340	19.3%
安良里	浜川東	73	4.1%
	浜川西	64	3.6%
	中島	45	2.5%
	天坂	62	3.5%
	浦上	49	2.8%
	不明	6	0.3%
	計	299	16.9%

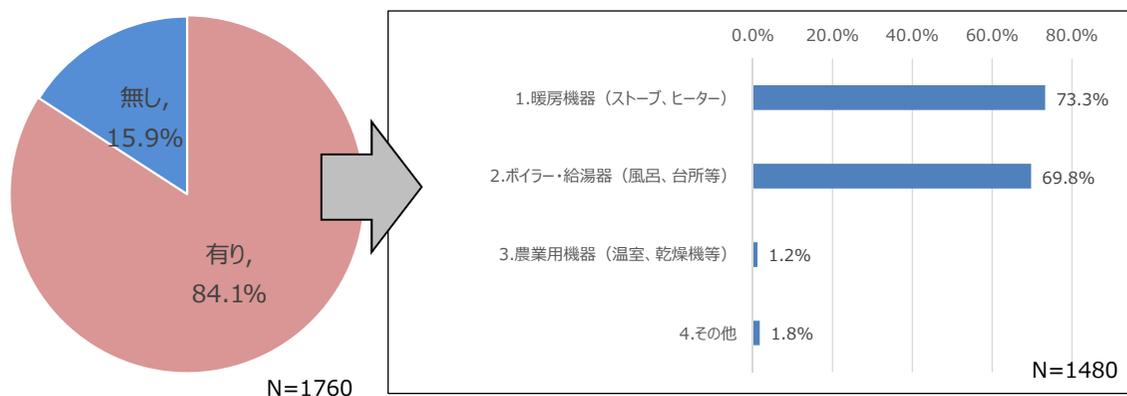
地区	回答数	割合	
田子	大田子	169	9.6%
	道西	62	3.5%
	道東	61	3.5%
	川向	47	2.7%
	月東	59	3.3%
	月西	61	3.5%
	浮島	10	0.6%
	不明	15	0.8%
	計	484	27.4%
	仁科	沢田	83
浜		144	8.2%
大浜		83	4.7%
野畑		20	1.1%
築地		89	5.0%
中		89	5.0%
一色		59	3.3%
不明		21	1.2%
計		588	33.3%
大沢里		55	3.1%
合計	1,766	100.0%	

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

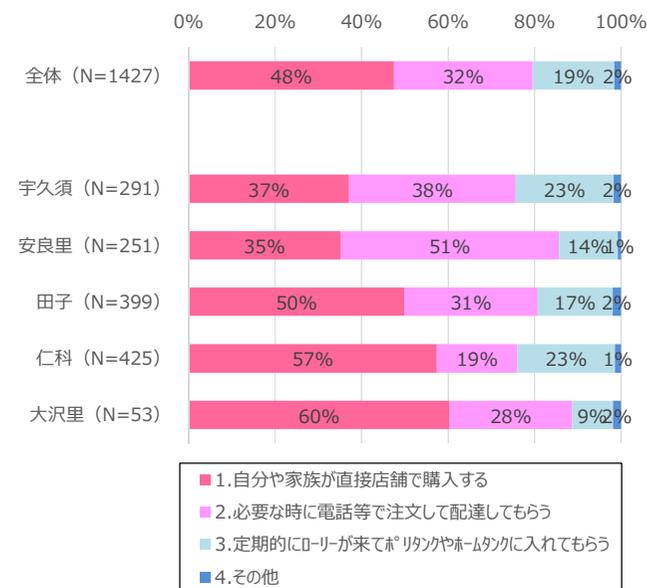
#### (2) 家庭における灯油の使用状況（町民アンケート調査結果）

- 灯油使用機器は、約 8 割の世帯が保有しており、保有機器としては、「暖房機器（ストーブ、ヒーター）」、「ボイラー・給湯器（風呂、台所等）」がいずれも約 7 割となっている。また、ホームタンクは約 8 割の世帯が保有している。
- 灯油の購入方法は、全体では店頭購入、配達(電話注文、定期購入)がそれぞれ約 5 割となっているが、地区別に見ると、宇久須地区、安良里地区では配達が約 6 割であるのに対し、仁科地区、大沢里地区では店頭購入が約 6 割となっている。

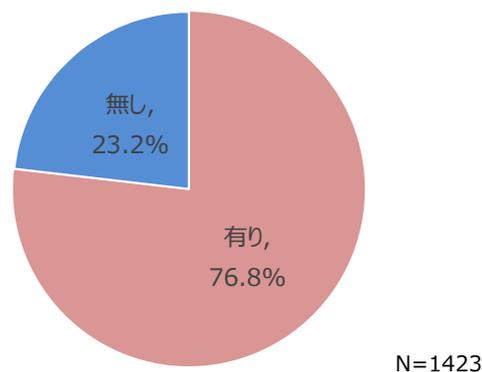
灯油使用機器の有無と保有している灯油機器



灯油の購入方法



(灯油使用機器がある場合) ホームタンクの有無



### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (3) 自動車用燃料の給油場所（町民アンケート調査結果）

- 自動車用燃料の給油場所は、宇久須地区、安良里地区の居住者は町内のSSで給油する割合が8割程度みられるが、田子地区は7割弱、仁科地区、大沢里地区は6割弱となっている。
- 町民全体の町内SS利用率は66%となっている。

1回あたり平均給油量 29.9L/台

店舗 居住地区	回答数 (台数)	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメリ西伊豆店	サガミシート松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率	
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)			
宇久須	大久須	57	81%	0%	0%	0%	4%	0%	0%	5%	0%	4%	2%	0%	11%	80.7%
	神田	57	77%	0%	0%	0%	7%	0%	2%	5%	0%	2%	0%	0%	7%	77.2%
	月原	81	74%	5%	1%	0%	4%	2%	4%	2%	0%	5%	0%	0%	6%	80.2%
	下月原	51	75%	4%	0%	0%	2%	0%	2%	4%	0%	0%	0%	2%	14%	78.4%
	浜	120	69%	3%	2%	0%	6%	1%	3%	5%	0%	3%	0%	1%	12%	73.3%
	柴	60	88%	0%	3%	0%	2%	0%	0%	3%	2%	2%	2%	0%	5%	91.7%
	不明	6	83%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	83.3%
計	432	76%	2%	1%	0%	4%	1%	3%	4%	0%	2%	1%	0%	9%	79.4%	
安良里	浜川東	74	50%	23%	0%	0%	1%	0%	5%	8%	0%	0%	5%	1%	7%	73.0%
	浜川西	60	52%	23%	0%	0%	7%	3%	2%	5%	0%	2%	2%	2%	8%	75.0%
	中島	47	57%	26%	0%	0%	4%	4%	0%	0%	0%	4%	2%	0%	9%	83.0%
	天坂	44	57%	16%	0%	0%	5%	7%	2%	2%	0%	0%	0%	2%	16%	72.7%
	浦上	37	49%	24%	0%	0%	8%	0%	3%	8%	0%	0%	0%	0%	11%	73.0%
	不明	4	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100.0%
計	266	53%	22%	0%	0%	5%	3%	3%	5%	0%	1%	2%	1%	9%	75.6%	
田子	大田子	176	24%	40%	5%	0%	11%	11%	6%	3%	0%	1%	1%	1%	7%	69.3%
	道西	64	22%	33%	9%	0%	14%	8%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	64.1%
	道東	51	33%	27%	6%	0%	14%	8%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	66.7%
	川向	46	17%	37%	7%	0%	11%	11%	7%	2%	0%	0%	0%	0%	11%	60.9%
	月東	58	29%	34%	7%	0%	7%	5%	9%	2%	0%	2%	0%	2%	7%	70.7%
	月西	65	17%	37%	5%	0%	18%	6%	5%	0%	0%	2%	0%	0%	12%	58.5%
	浮島	14	14%	57%	0%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	7%	71.4%
不明	15	27%	20%	0%	0%	7%	13%	13%	0%	7%	0%	0%	0%	20%	46.7%	
計	489	24%	36%	6%	0%	12%	9%	8%	2%	0%	1%	0%	1%	9%	65.6%	
仁科	沢田	110	6%	29%	27%	0%	12%	3%	15%	1%	0%	0%	0%	1%	13%	62.7%
	浜	177	5%	24%	27%	0%	10%	8%	14%	1%	0%	1%	0%	1%	11%	55.4%
	大浜	96	2%	40%	22%	0%	11%	5%	15%	1%	0%	0%	1%	1%	6%	63.5%
	野畑	24	8%	21%	13%	0%	17%	8%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	13%	41.7%
	築地	120	3%	34%	17%	0%	10%	8%	24%	1%	0%	1%	0%	1%	6%	53.3%
	中	112	3%	37%	14%	0%	13%	12%	14%	1%	0%	0%	1%	1%	9%	53.6%
	一色	84	4%	35%	18%	0%	13%	10%	23%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	56.0%
不明	21	10%	24%	24%	0%	5%	29%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	5%	57.1%	
計	744	4%	31%	21%	0%	11%	8%	16%	1%	0%	1%	0%	1%	9%	56.6%	
大沢里	52	0%	38%	19%	0%	15%	10%	15%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	57.7%	
合計	1983	31%	25%	10%	0%	9%	6%	9%	2%	0%	1%	1%	1%	9%	66.4%	

※1世帯最大2台分まで回答

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (4) 家庭用灯油の購入場所（町民アンケート調査結果）

- 灯油の購入場所は、居住している地区内のSSからの購入割合が比較的高い。
- 安良里地区、田子地区は、「その他」が比較的多く、具体的な店舗として、近隣の漁協支所、ガス会社等が挙げられている。

ピーク時ひと月あたり平均購入量  
61.2L/月/世帯

店舗 居住地区	回答数	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメ西伊豆店	サガミシド松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)		
宇久須	大久須	36	81%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	11%	80.6%
	神田	36	92%	0%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%	91.7%
	月原	45	82%	2%	0%	7%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	84.4%
	下月原	30	67%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	10%	3%	0%	17%	66.7%
	浜	78	87%	1%	1%	8%	1%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	4%	89.7%
	柴	43	88%	0%	2%	5%	0%	0%	0%	2%	2%	0%	0%	2%	90.7%
	不明	4	75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	75.0%
計	272	84%	1%	1%	7%	1%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	6%	85.3%	
安良里	浜川東	50	44%	12%	0%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	26%	56.0%
	浜川西	47	49%	6%	0%	17%	2%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	21%	55.3%
	中島	33	24%	6%	0%	33%	0%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	33%	30.3%
	天坂	43	49%	5%	0%	16%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	30%	53.5%
	浦上	34	29%	15%	6%	21%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	29%	50.0%
	不明	5	80%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	80.0%
計	212	42%	8%	1%	20%	0%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	27%	50.9%	
田子	大田子	113	5%	15%	0%	29%	2%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	47%	20.4%
	道西	49	8%	18%	2%	29%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	41%	28.6%
	道東	48	13%	8%	0%	21%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	52%	20.8%
	川向	34	12%	12%	3%	21%	0%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	26.5%
	月東	38	8%	16%	0%	16%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	61%	23.7%
	月西	41	7%	15%	0%	15%	2%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	61%	22.0%
	浮島	6	17%	33%	0%	17%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	33%	50.0%
	不明	9	22%	0%	0%	22%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	56%	22.2%
計	338	9%	14%	1%	23%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	50%	23.4%	
仁科	沢田	54	2%	17%	35%	28%	2%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	53.7%
	浜	100	1%	11%	39%	36%	3%	0%	1%	0%	0%	0%	0%	11%	51.0%
	大浜	49	0%	24%	31%	39%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	55.1%
	野畑	13	0%	23%	23%	46%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	46.2%
	築地	56	0%	11%	21%	45%	0%	4%	4%	0%	0%	0%	2%	14%	32.1%
	中	59	0%	27%	20%	44%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	47.5%
	一色	45	0%	20%	18%	47%	9%	0%	2%	0%	0%	0%	2%	7%	37.8%
	不明	15	0%	0%	13%	53%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	20%	13.3%
計	391	1%	17%	28%	40%	3%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	11%	45.5%
大沢里	44	0%	16%	9%	41%	20%	7%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	25.0%
合計	1257	28%	11%	10%	25%	2%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	23%	48.4%

- 「その他」で多くみられた店舗：漁協（安良里、田子）、徳田屋商店、北原商店、鈴与ガス

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (5) その他の燃料の購入場所（町民アンケート調査結果）

##### その他（農機具用など）のガソリン・混合油の購入場所

店舗 居住地区	回答数	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメ西伊豆店	サガミシード松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)		
宇久須	97	87%	0%	1%	6%	1%	0%	0%	1%	0%	1%	0%	0%	3%	87.6%
安良里	27	56%	15%	4%	7%	4%	0%	0%	4%	0%	4%	0%	0%	7%	74.1%
田子	33	21%	42%	3%	18%	3%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	6%	66.7%
仁科	104	3%	22%	27%	27%	10%	1%	9%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	51.9%
大沢里	22	0%	27%	14%	18%	14%	9%	18%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	40.9%
合計	283	39%	17%	12%	16%	6%	2%	5%	1%	0%	1%	0%	0%	3%	67.1%

##### その他（農機具用など）の灯油の購入場所

店舗 居住地区	回答数	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメ西伊豆店	サガミシード松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)		
宇久須	12	83%	0%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	83.3%
安良里	5	40%	0%	0%	0%	0%	0%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	40%	40.0%
田子	6	0%	17%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	16.7%
仁科	9	0%	22%	22%	33%	0%	0%	11%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	44.4%
大沢里	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
合計	32	38%	9%	6%	16%	3%	0%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	22%	53.1%

##### その他（農機具用など）の軽油の購入場所

店舗 居住地区	回答数	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメ西伊豆店	サガミシード松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)		
宇久須	4	75%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	25%	75.0%
安良里	4	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0.0%
田子	8	13%	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	37.5%
仁科	17	0%	24%	41%	0%	18%	6%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	64.7%
大沢里	2	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	50.0%
合計	35	11%	20%	20%	0%	9%	6%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	26%	51.4%

##### A重油の購入場所

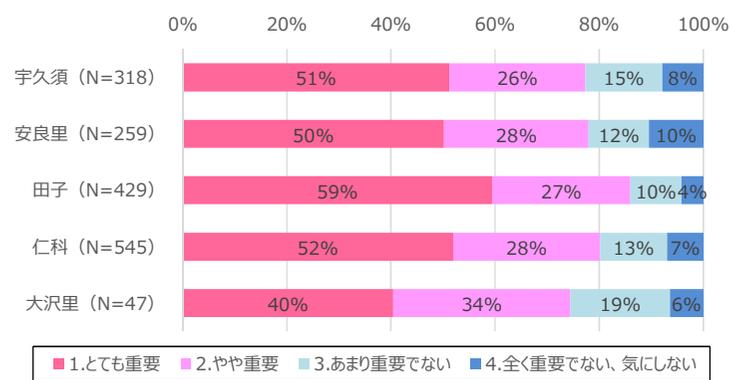
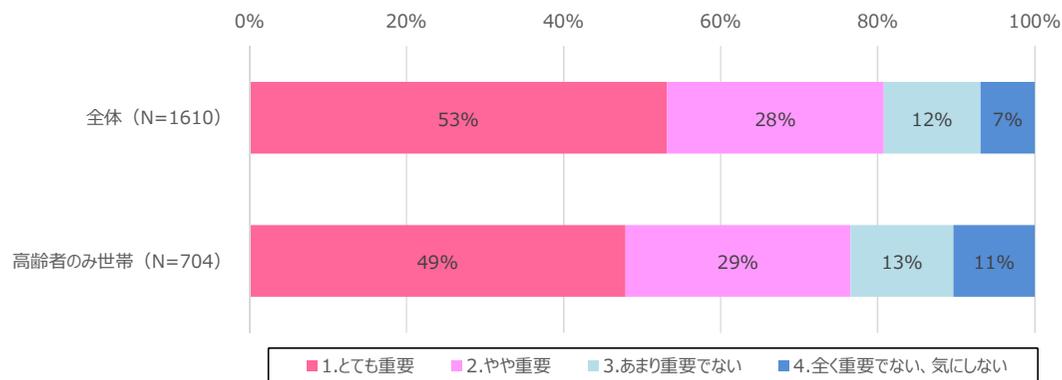
店舗 居住地区	回答数	丸宇興業	ニド-SS	ろ屋商店	コメ西伊豆店	サガミシード松崎SS	松崎石油	丸岩商店	山田石油	酒井石油	盛田屋	土肥のSS	下田市のSS	その他	町内SS購入率
		(宇久須)	(仁科)	(仁科)	(仁科)	(松崎町江奈)	(松崎町江奈)	(松崎町松崎)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市八木沢)	(伊豆市土肥)	(下田市)		
宇久須	4	25%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	75%	25.0%
安良里	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
田子	2	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0.0%
仁科	4	0%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	25.0%	
大沢里	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
合計	10	10%	10%	0%	0%	0%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	10%	60%	20.0%

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

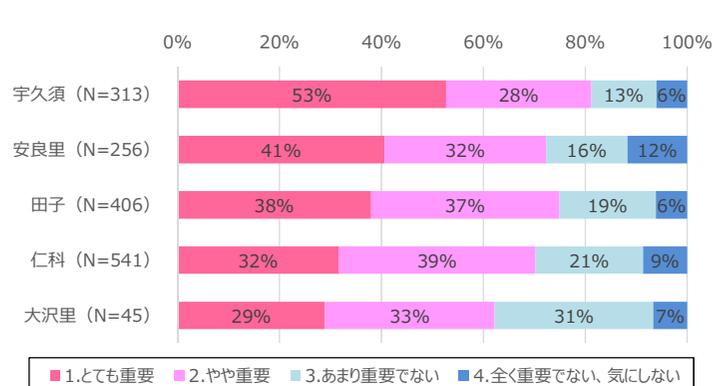
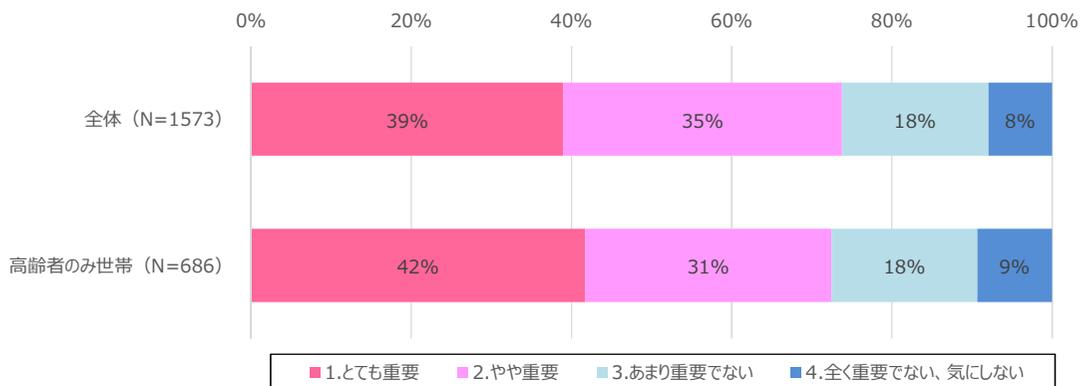
#### (6) ガソリンスタンドを選ぶ際の重視事項（町民アンケート調査結果）

- 価格については、全体の約5割が「とても重要」、約3割が「やや重要」としており、約8割が重視している。
- 自宅からの近さについては、全体の約4割が「とても重要」、約4割が「やや重要」としており、約7割が重視している。

##### ①価格



##### ②自宅からの近さ



### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

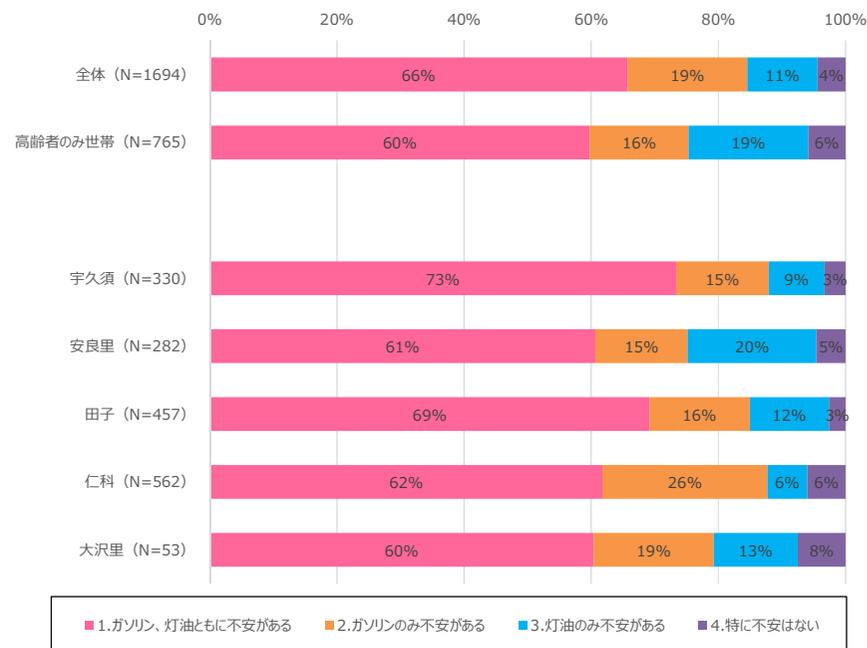
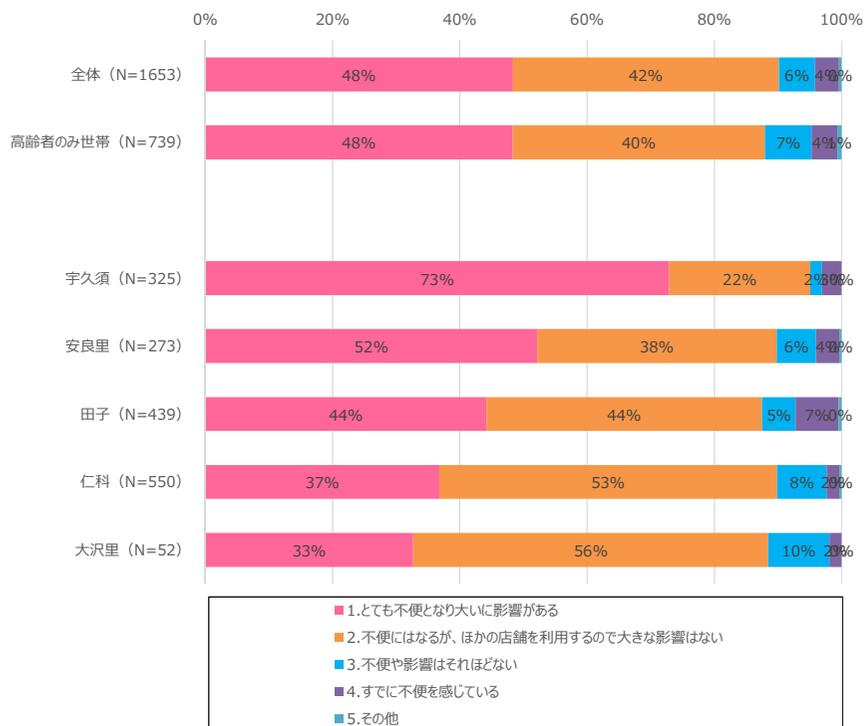
#### (7) 燃料供給不安の意識 (町民アンケート調査結果)

- よく利用しているガソリンスタンドが閉鎖となった場合の、生活への影響

- 地区内SSの利用割合が高い宇久須地区では、約7割が「とても不便となり大いに影響」としている。
- 一方、仁科地区、大沢里地区では、半数以上が「大きな影響は無い」としている。

- 災害時の道路通行止めなどによって、自分でガソリンや灯油が手に入れにくくなることに対する不安

- 自分で調達しにくくなることへの不安については、全体で9割以上が何かしらの不安を有している。



## 【参考】ガソリンスタンドや燃料供給に関する自由意見等（アンケート調査）

### ○ガソリンスタンドの閉鎖、減少への不安

- ガソリンスタンドがなくなるのは困る。
- 近所のガソリンスタンドが廃業にならないでほしい
- 地域からG Sが無くなると困る…
- すぐ近くにガソリンスタンドがない
- 地区に1店舗位のガソリンスタンドが欲しいです
- 人口減少によるガソリンスタンドが少なくなっていくことに不安がある

### ○災害時への不安、提案等

- 現在のスタンドは、どこも津波（南海トラフ）の浸水域にあるような気がする。高所に備蓄タンクを設けてほしい
- 定期的な巡回販売を町内のスタンドがしてくれればよいと思う
- 非常時に1～2ヶ所でも貯蔵しておくのと良いと思う 町で管理をしたら良い

### ○価格への意見

- 燃料をもう少し安くしてもらいたい
- 燃料代が高くなることがとても心配です
- 東海岸や東海道筋よりも値段が高いので困る

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (8) 町内燃料需要量の推計【自動車用燃料（ガソリン・軽油）】

- 各種統計資料をもとに、西伊豆町における自動車用燃料の年間需要量を推計した結果、ガソリンの年間需要量は、2430KL、軽油の年間需要量は489KLとなった。

A 自動車保有台数 (台)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		静岡県自動車保有台数調査
平成31年4月	125	2,137	69	3,038		
B 燃料別台数比率						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
ガソリン	32%	97%	—	100%		
軽油	68%	3%	100%	—		
C 保有台数推計値 (台)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計	A×B
ガソリン	40	2,075	—	3,038	5,154	
軽油	85	62	69	—	215	
D 稼働率						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
ガソリン	58.1%	69.5%	0.0%	71.1%		
軽油	55.1%	60.3%	57.4%	—		
E 稼働台数推計値 (台)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計	C×D
ガソリン	23	1,442	—	2,160	3,626	
軽油	47	37	40	—	123	
F 1台あたり年間走行キロ (km/台)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
ガソリン	11,892	9,002	—	8,204		
軽油	20,028	10,821	24,523	—		
G キロあたり燃料消費量 (L/km)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計
ガソリン	0.105	0.086	—	0.072		
軽油	0.223	0.096	0.250	—		
H 1台あたり年間燃料消費量 (L)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車		F×G
ガソリン	1,251	775	—	594		
軽油	4,459	1,035	6,128	—		
I 燃料消費量(総量) (L)						出典・根拠
	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計	E×H
ガソリン	29,253	1,118,267	—	1,282,853	2,430,373	
軽油	208,258	38,429	242,782	—	489,470	

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (9) 町内燃料需要量の推計【灯油、その他燃料】

##### 灯油（家庭用）の燃料需要量推計

- アンケート結果やSS事業者へのヒアリング、その他各種統計資料をもとに、西伊豆町における灯油の年間需要量を推計した結果、灯油の年間需要量は、（宿泊施設等の主要需要家を含めて）約1050KLとなった。

	項目	数値	単位	出典・根拠
①	1世帯当たり最大消費月の消費量	61.2	L	町民アンケート調査より設定（世帯平均）
②	ピーク率	18.3	%	家計調査月報より設定
③	1世帯当たり年間消費量	334.4	L	①/②
④	一般世帯数	3,671	世帯	令和元年度一般世帯数
⑤	灯油機器保有世帯率	84.1	%	町民アンケート調査より設定
A	一般世帯年間消費量（総量）	1,032	KL	③×（④×⑤）
B	主要需要家年間消費量（総量）	18	KL	宿泊施設アンケート調査
灯油需要量推計（合計）		1,050	KL	A+B（アンケート調査、ヒアリング調査による推計の合計）

##### その他（農業用など）の燃料需要量推計

###### ○ガソリン・混合油（草刈機、刈払機など）

世帯数	3671	世帯
利用世帯率	15.4%	
年間購入量	94	L
町内需要量	53	KL

###### ○軽油（農機用など）

世帯数	3671	世帯
利用世帯率	2.1%	
年間購入量	737	L
町内需要量	56	KL

###### ○灯油（乾燥機用など）

世帯数	3671	世帯
利用世帯率	1.6%	
年間購入量	1,132	L
町内需要量	68	KL

##### その他産業用の燃料需要量推計

- その他、町内の土木建設業者等が保有・使用する建設用重機に使用する燃料などの産業用燃料（軽油）については、SSの販売量実績のうちの「配達」から推計する。
- 町内SSの軽油の配達販売分は173KLであることから、これを産業用の軽油需要量とする。

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (10) 油種別の町内燃料需要量推計【総括】

##### ガソリン

###### 【推計値】

- 自動車用：2430KL
- その他農機具用等：53KL

###### 【販売・購入実績からの検証】

- 2430KLに、町内SS購入率66.4%を乗ずると、町内SS販売量は1614KLとなる。町内SSの販売実績は1929KLであるが、これには町外利用者も一定程度含まれていることを考慮すると、上記の推計値は概ね妥当といえる。

西伊豆町におけるガソリンの想定需要量は、**2480KL/年**とする。

##### 軽油

###### 【推計値】

- 自動車用：489KL（うち特殊除く貨物・乗用で計247KL）
- その他農機具用等：56KL、産業用：173KL

###### 【販売・購入実績からの検証】

- 貨物、乗用の247KLに、町内SS購入率66.4%を乗ずると、町内SS販売量（店頭）は164KLとなる。町内SSの軽油店頭販売実績は140KLであるが、貨物用の場合は（アンケートに回答しない）事業者が町外で給油する場合も多いと想定されるため、上記の推計値は概ね妥当といえる。

西伊豆町における軽油の想定需要量は、**720KL/年**とする。  
(町民用：550KL、産業用：170KL)

##### 灯油

###### 【推計値】

- 家庭用：1032KL、主要宿泊施設用：18KL
- その他農業用等：68KL

###### 【販売・購入実績からの検証】

- 1118KLに、町内SS購入率48.4%を乗じると541KLとなる。町内SSの灯油販売量は530KLであり、上記の推計値は概ね妥当といえる。

西伊豆町における灯油の想定需要量は、**1120KL/年**とする。

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ

#### (11) 油種別の将来燃料需要量推計

- ここまでの灯油、ガソリン、軽油の想定需要量をもとに、将来の燃料需要量の見通しを推計した。
- これによると、今後の人口減少や燃料需要原単位の変化（エネルギー転換や燃費向上等による、一人当たりの燃料消費量の減少）により、西伊豆町の燃料需要は今後減少が進み、例えばガソリンの場合、2030年には現在の約半分の量にまで減少するものとみられる。

#### 油種別の将来燃料需要量の見通し（西伊豆町全体）

A：現在需要量 (推計結果)	油種	現在需要量（2019年）	単位
	ガソリン	2,480	KL
	軽油	720	KL
	灯油	1,120	KL

B：需要家増減率 (人口増減率) ※使う人がどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	96%	80%	64%	51%	42%	20-79歳人口の増減
	軽油	100%	96%	80%	64%	51%	42%	20-79歳人口の増減
	灯油	100%	97%	82%	70%	58%	48%	総人口の増減

C：燃料需要原単位増減率 (エネルギー転換、燃費向上等) ※ひとりを使う量がどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	98%	84%	72%	63%	54%	人口1人当たりの消費量変化
	軽油	100%	98%	98%	98%	95%	91%	人口1人当たりの消費量変化
	灯油	100%	100%	99%	96%	92%	90%	人口1人当たりの消費量変化

D：燃料需要量の増減率 (B×C) ※需要量がどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	94%	68%	46%	32%	23%	20-79歳人口の増減
	軽油	100%	95%	79%	63%	48%	38%	20-79歳人口の増減
	灯油	100%	96%	81%	67%	54%	43%	総人口の増減

将来燃料需要量 (A×D) ※町全体での将来需要量	油種	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	単位
	ガソリン	2,480	2,333	1,683	1,143	789	562	KL
	軽油	720	682	569	451	348	276	KL
	灯油	1,120	1,080	910	745	603	485	KL

※油種別の想定需要家として、ガソリン、軽油は20-79歳人口、灯油は総人口を対象として推計

※燃料需要原単位増減率は、「平成29年度石油産業界等調査研究（我が国の石油製品の長期需要見通しに関する調査）」における油種別の需要量予測をもとに、各年時の需要量見通しを当該年次の将来推計人口で除することで、人口当たりの原単位の変化率を算出。ガソリン、軽油は旅客車の需要量予測をもとに、灯油は家庭用灯油の需要量予測を用いている。

## 【参考】地区別の将来燃料需要量推計

### 油種別の将来燃料需要量の見通し（地区別）

人口の地区別構成比		2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総人口	宇久須	18%	18%	18%	18%	18%	18%
	安良里	13%	13%	13%	13%	12%	12%
	田子	25%	25%	25%	24%	23%	23%
	仁科	41%	41%	42%	43%	44%	45%
	大沢里	2%	2%	2%	2%	2%	2%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%
20-79人口	宇久須	18%	18%	18%	18%	19%	19%
	安良里	14%	13%	13%	12%	11%	11%
	田子	25%	25%	24%	23%	21%	20%
	仁科	41%	42%	44%	46%	47%	48%
	大沢里	2%	2%	2%	2%	2%	1%
	計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

地区別将来需要量		2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
ガソリン	宇久須	444	418	301	208	149	108
	安良里	337	314	212	133	86	61
	田子	623	580	403	259	169	114
	仁科	1,026	974	733	522	372	271
	大沢里	50	47	35	21	13	7
	計	2,480	2,333	1,683	1,143	789	562
軽油	宇久須	129	122	102	82	66	53
	安良里	98	92	72	52	38	30
	田子	181	170	136	102	75	56
	仁科	298	285	248	206	164	133
	大沢里	15	14	12	8	6	4
	計	720	682	569	451	348	276
灯油	宇久須	205	198	166	136	110	89
	安良里	151	145	120	96	74	57
	田子	280	270	225	180	141	111
	仁科	457	442	379	318	265	219
	大沢里	26	25	20	15	12	9
	計	1,120	1,080	910	745	603	485

※町内需要量であり、想定販売量ではない

### 3. 地域の燃料需要及びニーズ ○災害時に必要となる燃料備蓄量

#### (12) 災害時に必要となる燃料備蓄量

- ・ 災害時を想定した燃料備蓄量については、①町民生活用の燃料（ガソリン、灯油） ②公的施設における非常用発電機用の燃料（軽油） ③道路啓開用の重機（土木作業等）用の燃料（軽油） の3つの観点から必要量を設定した。
- ・ これらから、**当面の災害用備蓄量として、ガソリン15~20KL、灯油15~20KL、軽油36KL程度の確保を目標とする。**

#### ①町民生活用の燃料（灯油・ガソリン）

##### 【備蓄量の想定条件】

- ・ 灯油は、暖房機器や給湯ボイラーなど、生活に必要な灯油使用機器を3日間使用できる量を備蓄目標とする。
- ・ ガソリンも同様に、道路啓開期間を想定し、3日分を備蓄目標とするほか、各種緊急車両への給油も念頭に置く必要がある。
- ・ 需要量は年々減少する見通しであるが、**ガソリン・灯油とも、当面15~20KL程度**の備蓄を目標とする。

##### ガソリン

項目	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
現在需要量（自動車用）(KL)	2,430	-	-	-	-	-
需要量増減率	100%	94%	68%	46%	32%	23%
年間需要量 (KL)	2,430	2,286	1,650	1,120	773	551
月間（30日間）需要量 (KL)	203	190	137	93	64	46
3日分需要量 (KL)	20.3	19.0	13.7	9.3	6.4	4.6

##### 灯油

項目	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
現在需要量（家庭・宿泊施設）(KL)	1,050	-	-	-	-	-
需要量増減率	100%	96%	81%	67%	54%	43%
年間需要量 (KL)	1,050	1,013	853	698	565	454
ピーク率	18.3%	18.3%	18.3%	18.3%	18.3%	18.3%
ピーク月間需要量 (KL)	192	185	156	128	103	83
ピーク月3日間需要量 (KL)	19.2	18.5	15.6	12.8	10.3	8.3

※ピーク率：年間使用量に対する、最も使用量が多い月（冬）の使用量の割合

#### ②公的施設における非常用発電機用の燃料（軽油）

##### 【備蓄量の想定条件】

- ・ 主要施設の発電機を一定期間稼働可能な量を備蓄目標とする。
- ・ 基本的に、各発電機のタンクは満タン状態となっているが、これらを再度満タン状態にする量として、**6KL程度**の備蓄を目標とする。

施設	使用燃料	設置	タンク容量 (L)
西伊豆町役場	軽油	屋上	950
	軽油	屋内	600
電算センター	軽油	屋内	900
田子出張所	軽油	屋内	190
安良里コミュニティセンター	軽油	屋内	40
住民防災センター	軽油	屋上	950
	軽油	地下	3,000
田子小学校	軽油	屋内	20
計			6,650

#### ③道路啓開用の重機（土木作業等）用の燃料（軽油）

##### ○国道

##### 【備蓄量の想定条件】

- ・ 町の主要幹線である国道136号については、国の検討委員会の算定に基づき、以下の重機を3日間稼働可能な量を確保する。  
<使用する重機>
  - ・バックホウ（0.8m<sup>3</sup>）×24台/日
  - ・ブルドーザー（21t級）×6台/日
  - ・ホイローダー×9台/日
- ・ これらに必要な燃料量として、**14KL程度**の備蓄を目標とする。

##### ○その他の道路

##### 【備蓄量の想定条件】

- ・ その他町内の道路については、町内土木会社が所有する、以下の重機を3日間稼働可能な量を確保する。  
<使用する重機>
  - タイヤショベル ×2台 30ℓ/時×8時間×3日間×8台=5760L
  - バックホウ ×43台 12ℓ/時×8時間×3日間×37台=10656L
- ・ これらに必要な燃料量として、**16KL程度**の備蓄を目標と想定する。

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

### (1) 燃料供給体制維持の方向性

- 西伊豆町の燃料供給の現状、課題を踏まえ、燃料供給維持の方向性として以下の通り定める。

#### ①燃料供給不安解消（住民の燃料供給の利便性維持・確保）面からの方向性

##### ・ 地区ごとの燃料供給機能の維持・確保

- 現在SSが立地している宇久須地区、仁科地区においては、既存のSSが引き続き地域の燃料供給拠点として維持できるよう、**町民の利用促進等を官民連携により展開**していく。
- 現在SSが立地していない安良里地区、田子地区、大沢里地区においては、燃料供給不安を解消する供給機能確保について検討する。
- 具体的には、（配送販売ができない）ガソリンについて、近年の保安規制緩和の動向を見ながら、**ローコストでの設置・運営が可能な、巡回型SSなどの設置・導入について検討**する。

#### ②地震等を想定した災害対策面からの方向性

##### ・ 災害時を想定した燃料備蓄の確保

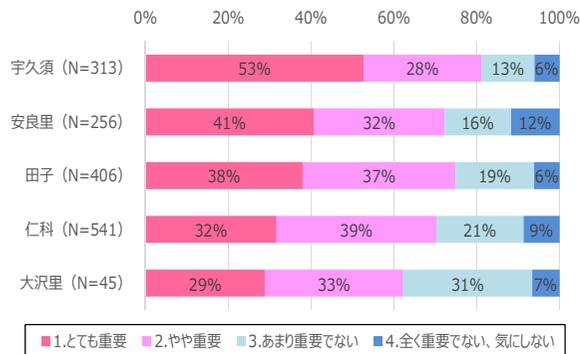
- 現在の3箇所のSSは、引き続き町民の燃料供給インフラとして、一層の利用を促進しつつ維持を図っていくが、これらのSSはいずれも浸水想定区域内に立地していることから、浸水想定区域外での、災害時を想定した燃料備蓄の確保を図る。
- 具体的には、浸水想定区域外で、町内各地区へのアクセスがしやすい、**安良里地区又は田子地区の国道136号沿いに、災害時を想定して燃料備蓄拠点を整備**する。
- なお、浸水被害発生により既存SSからの燃料供給ができなくなることや、今後の浸水被害想定区域の見直しに伴う拠点移設などの融通性等も考慮し、地上型タンクを導入を念頭に置く。また、備蓄燃料の適切な品質が確保されるよう、循環方策も考慮した施設形態を検討する。
- 施設形態や運営方策については、既存事業者との調整・協議を行いながら、具体的な方策を今後検討していく。

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

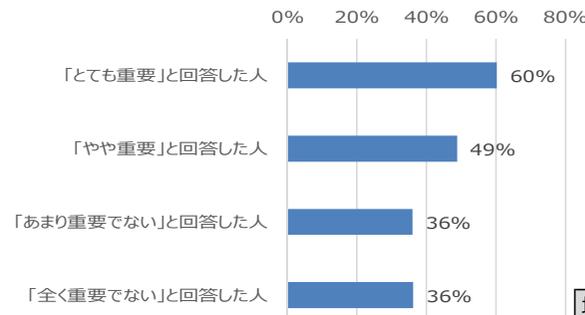
### (2) 現在SSが無い地区での燃料供給体制の検討

- 現在SSが無い安良里地区、田子地区、大沢里地区での燃料供給体制については、住民の需要量推計に基づく想定販売量から、必要規模を検討する必要がある。
- これについて、以下のステップにより、各地区にSSが開設した場合の想定販売量を推計した。
  - ✓ STEP1：ガソリン給油者のうち、SS利用にあたっての「自宅からの近さ」の重視度回答により、地区内のSS利用率を想定（※仁科地区住民の「自宅からの近さ」の重視度と地区内SS利用率の関係を参考に設定）
  - ✓ STEP2：ガソリンの町内需要量（将来需要量）に地区内SS想定利用率を乗じることで、想定販売量を推計
- この結果、**2025年時点で、安良里地区88KL/年、田子地区で166KL/年、大沢里地区で14KL/年と推計**

地区別の「自宅からの近さ」の重視度



仁科地区住民の「自宅からの近さ」の重視度回答別の地区内（仁科地区内）SS利用率



各地区の「自宅からの近さ」の重視度

重視度別の地区内SS利用率  
(仁科地区の例を参考に安全側で設定)

	「自宅からの近さ」の重視度と地区内SS利用率								地区内SS 想定利用率
	「とても重要」		「やや重要」		「あまり重要でない」		「全く重要でない」		
	割合	地区内SS 利用率	割合	地区内SS 利用率	割合	地区内SS 利用率	割合	地区内SS 利用率	
安良里地区	41%	50%	32%	40%	16%	30%	12%	30%	41%
田子地区	38%	50%	37%	40%	19%	30%	6%	30%	41%
大沢里地区	29%	50%	33%	40%	31%	30%	7%	30%	39%

地区別将来需要量	町内需要量 (KL/年)					
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	
ガソリン	安良里	314	212	133	86	61
	田子	580	403	259	169	114
	大沢里	47	35	21	13	7
	計	2,333	1,683	1,143	789	562

地区内SS想定販売量	地区内SS想定販売量 (KL/年)					
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	
ガソリン	安良里	130	88	55	35	25
	田子	240	166	107	70	47
	大沢里	18	14	8	5	3
	計	387	267	170	110	75

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

### ■ 地区内SS販売量を踏まえた、採算性・安全性を考慮した燃料供給形態（SS形態）の検討

- ここでは、従来型の ①地下タンク式SS ②地上タンク式のSS ③タンクローリによる巡回型SS の3つのケースについて、コスト面と適正規模の面から検討を行った。
- なお、地下タンク式SS、地上タンク式SSの場合は、基本的に固定施設となり、施設で直接給油可能な利用者は周辺の住民（安良里地区、田子地区）となる。
- そのほか、燃料需要が極めて小さい場合の燃料供給形態として、簡易計量機（タンク一体型の計量機）によるミニSSも想定される。これについては、タンク容量が最大0.6KLと極めて小規模であるため、今後の燃料需要の動向を注視しつつ、巡回型SSとの併用も含め、選択肢のひとつとして考慮しておく。

#### ①地下タンク式SS

- 両地区あわせて2022年推計で年販320KL程度、10年後にはその半分近い数量に減少する見通しであり、初期投資の回収のほか、年間の維持費も賄うことができず、採算性が確保できない。

#### ②地上タンク式SS

- 地下タンク同様の販売量となるが、地下タンク式と比べてコストは低いものの、採算性は確保できない。

#### ③巡回型SS

- 各地区に計量機のみを設置し、タンクローリが巡回する形態となる。
- 初期投資は比較的大きいが、維持費は低く、また販売量に応じて巡回回数を調整する等によってコスト削減が可能となる。
- 減価償却期間は赤字が続くが、維持費自体はプラスであり、初期投資を回収したのちは黒字となる。
- 計量機も巡回（運搬）した場合、収支はさらに優位となる。

- 当面の燃料供給不安の解消のための将来的な燃料供給体制として、町内の各既存事業者の利益を損なわないスキーム（例えば、仕入れ・販売（配送）等については、町から町内の各既存事業者に対して委託を行い運営するスキーム）を構築することを前提に、**安良里地区、田子地区、大沢里地区にタンクローリ巡回型SSの導入**を図ることを、今後の関連保安規制の動向、コストの詳細な検討等を踏まえながら、町内の各既存事業者や石油組合とともに、整備・導入の時期も含め引き続き検討する。

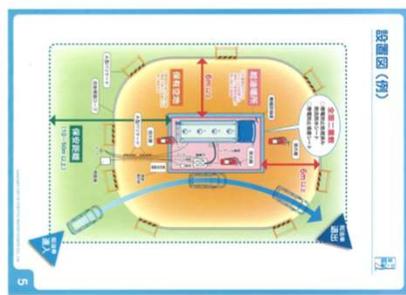
## 参考：タンクローリー巡回型SS

### ○想定する施設・設備の概要

- ・ 移動式貯蔵所（タンクローリー）が定期的に巡回し、計量機と直結することで、給油所としての機能を確保する
- ・ 計量機は、タンクローリーとの直結が可能な形態のものを設置する
- ・ 計量機は、各地区に定常的に設置しておくケースと、タンクローリーとともに巡回するケースが考えられる
- ・ タンクローリーは、既存の車両を利用することが可能である
- ・ 給油時には、養生シートや油吸着剤による流出防止措置等を講じることが必要となっている
- ・ 導入にあたっては、車両、計量機といったハードのほか、効率的かつ利用者の需要・ニーズに適した巡回ルートの設定も重要な検討事項となる。

### 仕組みとポイント

- 日常使用する給油ホースで接続するだけ
- タンクローリーに積載された燃料を安全に取扱うことができる
- 可搬式なので必要な場所に移動して設置することができる
- 灯油、軽油だけでなくガソリンにも対応
- 給油操作は普段慣れ親しんだ方法と全く同じ
- 給油量は必要な数量に応じたタンクローリーを準備して対応



出典：経済産業省資源エネルギー庁「次世代燃料供給インフラ研究会」資料（横田瀝青株式会社提供資料）より

## 参考：タンクローリー巡回型SS

### 【巡回型SS導入のメリット】

- 巡回型SSを導入するエリアは、基本的に販売量が少ないエリアであり、導入コスト（設備投資）をどのように回収していくかが大きな課題といえるが、一方で、需要量にあわせて巡回回数を変動させることなど、運営上の柔軟性は高く、（導入コスト回収後、）長期的視点からはコスト効率は高い方策といえる。
- また、需要に対して機動的に対応できるため、当面は、災害用備蓄用として配置し、将来的に巡回給油を行うことも考えられる。

### 【検討に当たっての留意点】

- 検討にあたっては、タンクローリー（既存車両の利用可能）や巡回型対応の計量機（ローリー直結型計量機や簡易計量機など）の導入コストのほか、巡回頻度、配送距離などを考慮しながらランニングコストを精査・検討し、どういった運営体制、サービスレベルで経営が成立するか、必要需要規模を踏まえながら多角的な検討・検証を行う必要がある。
- また、燃料需要が極めて小さくなった場合等、簡易計量機によるSSとの併用による、より柔軟な燃料供給体制の構築も考えられる。

<巡回型SSのコストに影響を与える主要要素>

★巡回箇所数、巡回場所

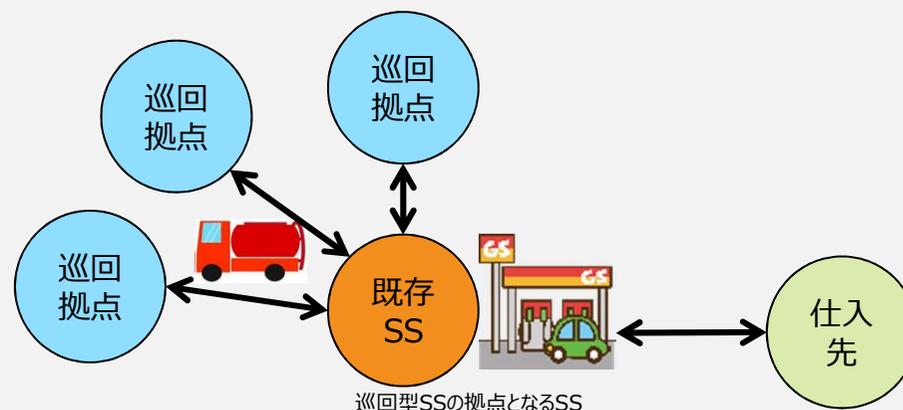
→地上設備導入コスト、配送費（配送距離）に影響

★ローリー規模

→ローリー導入コスト、巡回回数、配送費（燃費）に影響

★巡回回数

→人件費（日数）、配送費に影響



## 参考：簡易計量機（ポータブル計量機）によるSS

### 【簡易計量機SS導入のメリット】

- 簡易計量機（ポータブル計量機）は、移動・運搬が可能なタンク一体型の計量機であり、配管工事不要で設置することができる。
- 必要な保安距離等が確保された休廃止SSなどにおいて簡易に設置できる。
- 100万円台で設置することができ、安価に設置することができる。

### 【検討に当たっての留意点】

- 容量は最大600Lであるため、在庫補充頻度が多くなることによるコストを考慮する必要がある。
- また、残量100L未満にならないと荷下ろしができないため、ローリーの荷下ろしの最小単位を考慮した在庫管理が必要となる。

簡易計量機の例



出典：経済産業省「平成28年度SS過疎地実態調査報告書」

簡易計量機の設置例



出典：経済産業省資源エネルギー庁編  
「SS経営に関する優秀事例 100選」  
(平成28年5月)

# 供給不安地域でのSSコスト試算①：地下タンク式SS

## (試算条件)

- ・安良里地区、田子地区の住民が利用と想定
- ・設置工事費5000万
- ・人件費：1.0人

※この試算は、SS形態の違いによるコスト比較をわかりやすく把握するために行ったものであり、その数値は、実際の経営見通しや採算性を示すものではない。実際の導入に際しては、その時点の需要動向や経費動向を含む諸条件を厳格に精査・検討したうえで、採算性等の見直しを行う必要がある。

## ○施設及び営業条件

### 【導入費】

施設・設備	5,000万円
-------	---------

### 【営業条件】

店舗人員	1.0名
人件費	30万円/月
原価率	90%

### 【維持費】

人件費	3,600千円/年	
法定福利費	540千円/年	人件費の15%
光熱費	200千円/年	
修繕維持費	200千円/年	
事務経費	500千円/年	広告、通信、消耗品等
減価償却費	6,250千円/年	8年償却
合計	11,290	

### 【タンク容量】

ガソリン	20KL
軽油	10KL
計	30KL

### 【敷地】

敷地面積	200㎡
地価	25,000円/㎡

### 【借入】

借入金	5,000万円
返済開始	2022年
返済期間	10年
金利	3.5%

※元利均等

【社会的割引率】

割引率	4.0%
-----	------

## ○経営シミュレーション

地下タンク		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2022~2040計		
売上	ガソリン	単価 (円/L)			150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150		
		数量 (KL)			323	300	277	254	236	217	199	180	162	151	139	128	117	105	99	92	86	79	72		
		計 (千円)			48,455	45,001	41,547	38,092	35,333	32,574	29,814	27,055	24,296	22,597	20,897	19,198	17,499	15,799	14,812	13,824	12,837	11,849	10,862		
	軽油	単価 (円/L)																							
		数量 (KL)																							
		計 (千円)																							
	灯油	単価 (円/L)																							
		数量 (KL)																							
		計 (千円)																							
	合計 (千円)			48,455	45,001	41,547	38,092	35,333	32,574	29,814	27,055	24,296	22,597	20,897	19,198	17,499	15,799	14,812	13,824	12,837	11,849	10,862	482,342		
売上原価 (千円)			43,610	40,501	37,392	34,283	31,800	29,316	26,833	24,350	21,866	20,337	18,808	17,278	15,749	14,219	13,331	12,442	11,553	10,664	9,776	434,108			
売上総利益 (千円)			4,846	4,500	4,155	3,809	3,533	3,257	2,981	2,706	2,430	2,260	2,090	1,920	1,750	1,580	1,481	1,382	1,284	1,185	1,086	48,234			
販売費及び一般管理費	人件費			3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	68,400		
	法定福利費			540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	5,400		
	光熱費			200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,000		
	修繕維持費			200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,000		
	事務経費			500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	5,000		
	減価償却費			6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	50,000	
計			11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	11,290	145,760		
営業利益 (収支)			-6,444	-6,790	-7,135	-7,481	-7,757	-8,033	-8,309	-8,584	-8,860	-9,136	-9,412	-9,688	-9,964	-10,240	-10,516	-10,792	-11,068	-11,344	-11,620	-11,896	-97,526		
借入金返済	元本			4,262	4,411	4,566	4,725	4,891	5,062	5,239	5,423	5,612	5,809	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	
	支払利息			1,750	1,601	1,446	1,287	1,121	950	773	590	400	203	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,121	
課税所得			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
税引前CF			-6,207	-6,552	-6,897	-7,243	-7,519	-7,795	-8,071	-8,347	-8,622	-8,897	-9,173	-9,448	-9,724	-10,000	-10,276	-10,552	-10,828	-11,104	-11,380	-11,656	-107,647		
累計CF			-6,207	-12,759	-19,656	-26,899	-34,417	-42,212	-50,283	-58,629	-67,252	-76,044	-85,095	-94,412	-103,995	-113,838	-123,950	-134,331	-145,081	-156,200	-167,688	-179,544	-191,767		
税引前CF (現在価値)			-5,720	-5,797	-5,858	-5,906	-5,885	-5,857	-5,822	-5,780	-5,733	-5,612	-1,808	-1,835	-1,858	-1,876	-1,852	-1,827	-1,802	-1,775	-1,748		-74,350		
累計CF (現在価値)			-5,720	-11,517	-17,375	-23,281	-29,166	-35,023	-40,845	-46,626	-52,358	-57,970	-63,561	-69,133	-74,686	-80,220	-85,734	-91,228	-96,702	-102,156	-107,590		-74,350		

# 供給不安地域でのSSコスト試算②：地上タンク式SS

(試算条件)

- ・安良里地区、田子地区の住民が利用と想定
- ・設置工事費2500万
- ・人件費：1.0人

※この試算は、SS形態の違いによるコスト比較をわかりやすく把握するために行ったものであり、その数値は、実際の経営見通しや採算性を示すものではない。実際の導入に際しては、その時点の需要動向や経費動向を含む諸条件を厳格に精査・検討したうえで、採算性等の見直しを行う必要がある。

## ○施設及び営業条件

【導入費】

施設・設備	2,500万円
-------	---------

【維持費】

人件費	3,600千円/年	
法定福利	540千円/年	人件費の15%
光熱費	100千円/年	
修繕維持	100千円/年	
事務経費	250千円/年	広告、通信、消耗品等
減価償却	3,125千円/年	8年償却
合計	7,715	

【タンク容量】

ガソリン	12 KL
軽油	6 KL
計	18 KL

【借入】

借入金	2,500万円
返済開始	2022年
返済期間	10年
金利	3.5%

※元利均等

【割引率】

割引率	4.0%
-----	------

## ○経営シミュレーション

地上タンク		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2022~2040計		
売上	ガソリン	単価 (円/L)		150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150		
		数量 (KL)		323	300	277	254	236	217	199	180	162	151	139	128	117	105	99	92	86	79	72			
		計 (千円)		48,455	45,001	41,547	38,092	35,333	32,574	29,814	27,055	24,296	22,597	20,897	19,198	17,499	15,799	14,812	13,824	12,837	11,849	10,862			
	軽油	単価 (円/L)																							
		数量 (KL)																							
		計 (千円)																							
	灯油	単価 (円/L)																							
		数量 (KL)																							
		計 (千円)																							
	合計 (千円)		48,455	45,001	41,547	38,092	35,333	32,574	29,814	27,055	24,296	22,597	20,897	19,198	17,499	15,799	14,812	13,824	12,837	11,849	10,862			482,342	
売上原価 (千円)		43,610	40,501	37,392	34,283	31,800	29,316	26,833	24,350	21,866	20,337	18,808	17,278	15,749	14,219	13,331	12,442	11,553	10,664	9,776			434,108		
売上総利益 (千円)		4,846	4,500	4,155	3,809	3,533	3,257	2,981	2,706	2,430	2,260	2,090	1,920	1,750	1,580	1,481	1,382	1,284	1,185	1,086			48,234		
販売費及び一般管理費	人件費		3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	68,400	
	法定福利費		540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540	540		
	光熱費		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
	修繕維持費		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100		
	事務経費		250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250		
	減価償却費		3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	3,125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000
計		7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	7,715	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	4,590	112,210	
営業利益 (収支)			-2,869	-3,215	-3,560	-3,906	-4,182	-4,458	-4,734	-5,009	-5,285	-5,560	-5,836	-6,112	-6,388	-6,664	-6,940	-7,216	-7,492	-7,768	-8,044	-8,320	-8,596	-63,976	
借入金返済	元本		2,131	2,206	2,283	2,363	2,445	2,531	2,620	2,711	2,806	2,904	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000	
	支払利息		875	800	723	643	561	475	386	295	200	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,060	
課税所得			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
税引前CF			-2,751	-3,096	-3,441	-3,787	-4,063	-4,339	-4,615	-4,891	-5,166	-5,436	-5,712	-5,988	-6,264	-6,540	-6,816	-7,092	-7,368	-7,644	-7,920	-8,196	-8,472	-69,036	
累計CF			-2,751	-5,846	-9,288	-13,075	-17,137	-21,476	-26,091	-30,981	-36,148	-41,484	-46,984	-52,644	-58,454	-64,414	-70,524	-76,784	-83,194	-89,754	-96,464	-103,324	-110,344	-117,524	
税引前CF (現在価値)			-2,535	-2,739	-2,923	-3,088	-3,180	-3,260	-3,329	-3,387	-3,435	-3,406	-1,532	-1,571	-1,604	-1,632	-1,618	-1,602	-1,586	-1,568	-1,549	-1,529	-1,508	-45,542	
累計CF (現在価値)			-2,535	-5,274	-8,197	-11,284	-14,465	-17,725	-21,054	-24,441	-27,875	-31,281	-34,654	-38,004	-41,334	-44,644	-47,934	-51,204	-54,454	-57,684	-60,894	-64,084	-67,254	-70,404	

# 供給不安地域でのSSコスト試算③：タンクローリー巡回型SS（計量機を常設した場合）

（試算条件）

- ・安良里地区、田子地区、大沢里地区を巡回
- ・タンクローリー導入費：600万円
- ・地上設備（タンクローリー直結型計量機等）：1400万円/箇所 × 3基（3箇所）
- ・人件費：1.0人（運転手・給油スタッフ兼務）

※この試算は、SS形態の違いによるコスト比較をわかりやすく把握するために行ったものであり、その数値は、実際の経営見通しや採算性を示すものではない。実際の導入に際しては、その時点の需要動向や経費動向を含む諸条件を厳格に精査・検討したうえで、採算性等の見直しを行う必要がある。

## ○施設及び営業条件

【導入費】			
ローリー	600万円		4 KLO-ロー
地上設備	1,400万円（1箇所あたり）	箇所数	3箇所

【営業条件】			
店舗人員	1.0名		
人件費単価	10,000円/日		
原価率	90%		
ローリー燃費	8 km/L		※4トン貨物車参考

【維持費】			
人件費	10千円/日		
法定福利	1.5千円/日		人件費の15%
光熱費	0千円/年		
配送費	16円/Km		燃料単価/燃費
事務経費	0千円/年		広告、通信、消耗品等
減価償却	1,500千円/年		4年償却 ローリー
減価償却	1,750千円/年		8年償却 地上設備（1箇所あたり）
仕入距離	100.0 km/回		往復100kmと想定
燃料単価	130円/L		※軽油

【借入】	
借入金	4,800万円
返済開始	2022年
返済期間	10年
金利	3.5%
※元利均等	
【割引率】	
割引率	4.0%

配送（巡回、仕入）距離は、  
 拠点～安良里：6 km  
 拠点～田子：6 km  
 拠点～大沢里：30 km  
 拠点～仕入先：100 km  
 （いずれも往復）と想定

## ○運営条件

巡回型SS		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	
運営条件	安良里	減価償却（地上設備）			1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750												
		年間販売量（KL）			113	104	96	88	81	75	68	61	55	51	47	43	39	35	33	31	29	27	25
		巡回数/月			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	1	1	1	1	1
	田子	1回あたり販売量（KL）			2.3	2.2	2.0	1.8	1.7	1.6	1.4	1.3	1.1	1.1	2.0	1.8	1.6	1.5	2.8	2.6	2.4	2.3	2.1
		減価償却（地上設備）			1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750											
		販売量（KL）			210	196	181	166	154	143	131	119	107	100	92	85	77	70	65	61	56	52	47
	大沢里	巡回数/月			8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	4	4	4	2	2	2	2	2	2
		1回あたり販売量（KL）			2.2	2.0	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.2	1.1	1.0	1.9	1.8	1.6	1.5	2.7	2.5	2.3	2.2	2.0
		減価償却（地上設備）			1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750											
	年間巡回回数（回）	販売量（KL）			16	15	14	14	12	11	10	9	8	7	7	6	6	5	5	4	4	3	3
		巡回数/月			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		1回あたり販売量（KL）			1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2
年間巡回回数（回）				156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	156	84	84	84	84	48	48	48	48	
年間巡回距離（km・台）				1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	1,224	792	792	792	576	576	576	576	576	
年間仕入回数（回）	年間仕入回数（回）			85	79	73	67	62	58	53	48	43	40	37	34	31	28	26	25	23	21	19	
	年間仕入距離（km）			8,500	7,900	7,300	6,700	6,200	5,800	5,300	4,800	4,300	4,000	3,700	3,400	3,100	2,800	2,600	2,500	2,300	2,100	1,900	

1回当たりの販売量に応じて、巡回回数を調整（巡回回数を調整することで、人件費、配送費が削減）

## ○経営シミュレーション

巡回型SS		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2022~2040計	
売上	ガソリン			150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	
	数量（KL）			339	315	291	267	248	228	209	189	170	158	146	134	122	110	103	96	89	82	75		
	計（千円）			50,913	47,316	43,719	40,123	37,198	34,273	31,348	28,423	25,499	23,711	21,923	20,135	18,347	16,559	15,507	14,455	13,403	12,351	11,299		
合計（千円）				50,913	47,316	43,719	40,123	37,198	34,273	31,348	28,423	25,499	23,711	21,923	20,135	18,347	16,559	15,507	14,455	13,403	12,351	11,299	506,502	
売上原価（千円）				45,821	42,584	39,347	36,111	33,478	30,846	28,213	25,581	22,949	21,340	19,730	18,121	16,512	14,903	13,956	13,010	12,063	11,116	10,169	455,852	
売上総利益（千円）				5,091	4,732	4,372	4,012	3,720	3,427	3,135	2,842	2,550	2,371	2,192	2,013	1,835	1,656	1,551	1,446	1,340	1,235	1,130	50,650	
販売費及び一般管理費	人件費			1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	840	840	840	840	480	480	480	480	480	480	
	法定福利費			234	234	234	234	234	234	234	234	234	234	234	126	126	126	72	72	72	72	72	72	
	光熱費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	配送費			158	148	139	129	121	114	106	98	90	85	73	68	63	58	52	50	47	43	40	40	
	事務経費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減価償却費①			1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	6,000
	減価償却費②			5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	5,250	42,000
計			8,702	8,692	8,683	8,673	7,165	7,158	7,150	7,142	1,884	1,879	1,039	1,034	1,029	1,024	604	602	599	595	592	592	74,246	
営業利益（収支）				-3,611	-3,961	-4,311	-4,660	-3,445	-3,731	-4,015	-4,300	666	492	1,153	979	805	632	947	844	742	640	538	-23,596	
借入金返済	元本			4,092	4,235	4,383	4,536	4,695	4,860	5,030	5,206	5,388	5,576	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48,000	
	支払利息			1,680	1,537	1,389	1,235	1,076	912	742	566	384	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,716	
課税所得				0	0	0	0	0	0	0	0	282	297	1,153	979	805	632	947	844	742	640	538	7,858	
税引前CF				-4,132	-4,482	-4,832	-5,182	-3,966	-4,252	-4,537	-4,821	-5,105	-5,279	1,153	979	805	632	947	844	742	640	538	-39,311	
累計CF				-4,132	-8,615	-13,447	-18,629	-22,595	-26,848	-31,384	-36,206	-41,311	-46,591	-45,437	-44,458	-43,652	-43,021	-42,074	-41,230	-40,489	-39,849	-39,311		
税引前CF（現在価値）				-3,808	-3,966	-4,104	-4,225	-3,105	-3,195	-3,273	-3,339	-3,394	-3,370	707	576	455	342	493	421	356	295	238	-31,897	
累計CF（現在価値）				-3,808	-7,774	-11,878	-16,103	-19,208	-22,404	-25,676	-29,015	-32,410	-35,779	-35,073	-34,496	-34,042	-33,699	-33,206	-32,785	-32,429	-32,135	-31,897		

# 供給不安地域でのSSコスト試算④：タンクローリー巡回型SS（計量機も巡回した場合）

（試算条件）

- ・安良里地区、田子地区、大沢里地区を巡回
- ・タンクローリー導入費：600万円 ・運搬車両導入費：500万円
- ・地上設備（タンクローリー直結型計量機等）：1400万円/箇所 × 1基（運搬・巡回）
- ・人件費：1.25人（ローリー運転手・給油スタッフ兼務1名、運搬車両運転手0.25名）

※この試算は、SS形態の違いによるコスト比較をわかりやすく把握するために行ったものであり、その数値は、実際の経営見通しや採算性を示すものではない。実際の導入に際しては、その時点の需要動向や経費動向を含む諸条件を厳格に精査・検討したうえで、採算性等の見直しを行う必要がある。

## ○施設及び営業条件

【導入費】

ローリー	600万円	4 KLローリー
運搬車両	500万円	1.5 ミニトラック
地上設備	1,400万円（運搬・巡回）	台数 1基

【営業条件】

店舗人員	1.25名（ローリー1名、運搬0.25名）
人件費単価	10,000円/日
原価率	90%
ローリー燃費	8 km/L ※ローリー、運搬車共通
運搬車燃費	12 km/L ※1トン貨物車参考

【維持費】

人件費	10千円/日	
法定福利	1.5千円/日	人件費の15%
光熱費	0千円/年	
配送費	16円/Km	ローリー燃料単価/燃費
配達費	11円/Km	運搬車燃料単価/燃費
事務経費	0千円/年	広告、通信、消耗品等
減価償却	2,750千円/年	4年償却 ローリー、運搬車両
減価償却	1,750千円/年	8年償却 上設備（1箇所あたり）
仕入距離	100.0 km/回	往復100kmと想定
燃料単価	130円/L	※軽油

運搬車両の稼働時間は0.25日（2時間）を想定  
営業前、営業後にそれぞれ往復

【借入】

借入金	2,500万円
返済開始	2022年
返済期間	10年
金利	3.5%
※元利均等	
割引率	4.0%

配送（巡回、仕入）距離は、  
拠点～安良里：6 km  
拠点～田子：6 km  
拠点～大沢里：30 km  
拠点～仕入先：100 km  
（いずれも往復）と想定

## ○運営条件

巡回型SS		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	
運営条件	安良里	減価償却（地上設備）																					
		年間販売量（KL）			113	104	96	88	81	75	68	61	55	51	47	43	39	35	33	31	29	27	25
		巡回数/月（回）			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	田子	減価償却（地上設備）																					
		販売量（KL）			210	196	181	166	154	143	131	119	107	100	92	85	77	70	65	61	56	52	47
		巡回数/月（回）			8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	4	4	4	4	2	2	2	2
	大沢里	減価償却（地上設備）																					
		販売量（KL）			16	15	14	14	12	11	10	9	8	7	7	6	6	5	5	4	4	3	3
		巡回数/月（回）			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ローリー年間配送距離（km）				1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9	0.8	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2
	運搬車年間配送距離（km）				2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	2,448	1,584	1,584	1,584	1,584	1,152	1,152	1,152	1,152
	年間仕入回数（回）				85	79	73	67	62	58	53	48	43	40	37	34	31	28	26	25	23	21	19
年間仕入距離（km）				8,500	7,900	7,300	6,700	6,200	5,800	5,300	4,800	4,300	4,000	3,700	3,400	3,100	2,800	2,600	2,500	2,300	2,100	1,900	

1回当たりの販売量に応じて、巡回回数を調整（巡回回数を調整することで、人件費、配送費が削減）

## ○経営シミュレーション

巡回型SS		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2022～2040計
売上	ガソリン			150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
	数量（KL）			339	315	291	267	248	228	209	189	170	158	146	134	122	110	103	96	89	82	75	
	計（千円）			50,913	47,316	43,719	40,123	37,198	34,273	31,348	28,423	25,499	23,711	21,923	20,135	18,347	16,559	15,507	14,455	13,403	12,351	11,299	
合計（千円）				50,913	47,316	43,719	40,123	37,198	34,273	31,348	28,423	25,499	23,711	21,923	20,135	18,347	16,559	15,507	14,455	13,403	12,351	11,299	
売上原価（千円）				45,821	42,584	39,347	36,111	33,478	30,846	28,213	25,581	22,949	21,340	19,730	18,121	16,512	14,903	13,956	13,010	12,063	11,116	10,169	
売上総利益（千円）				5,091	4,732	4,372	4,012	3,720	3,427	3,135	2,842	2,550	2,371	2,192	2,013	1,835	1,656	1,551	1,446	1,340	1,235	1,130	
販売費及び一般管理費	ローリー人件費			1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	1,560	840	840	840	840	480	480	480	480	
	運搬車人件費			390	390	390	390	390	390	390	390	390	390	390	210	210	210	210	120	120	120	120	
	法定福利費			293	293	293	293	293	293	293	293	293	293	293	158	158	158	158	90	90	90	90	
	光熱費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	配送費			185	175	165	155	147	141	133	124	116	111	90	85	80	76	64	62	59	56	53	
	事務経費			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減価償却費①			2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750	2,750									11,000
	減価償却費②			1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750									14,000
	計			6,927	6,917	6,908	6,898	6,888	6,878	6,868	6,858	6,848	6,838	6,828	6,818	6,808	6,798	6,788	6,778	6,768	6,758	6,748	6,738
	営業利益（収支）			-1,836	-2,186	-2,536	-2,886	-3,236	-3,586	-3,936	-4,286	-4,636	-4,986	-5,336	-5,686	-6,036	-6,386	-6,736	-7,086	-7,436	-7,786	-8,136	-8,486
借入金返済			2,131	2,206	2,283	2,363	2,445	2,531	2,620	2,711	2,806	2,904	3,002	3,102	3,202	3,302	3,402	3,502	3,602	3,702	3,802	3,902	
課税所得			875	800	723	643	561	475	386	295	206	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
税引前CF			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	895	721	547	373	797	693	591	489	387	
累計CF			-3,092	-6,534	-10,325	-14,467	-18,143	-21,557	-24,699	-27,483	-29,917	-31,999	-33,729	-35,107	-36,133	-36,807	-37,131	-37,105	-36,729	-35,993	-34,897	-33,441	
税引前CF（現在価値）			-2,849	-3,045	-3,220	-3,377	-3,512	-3,627	-3,714	-3,774	-3,808	-3,818	-3,804	-3,767	-3,708	-3,627	-3,524	-3,400	-3,256	-3,093	-2,911	-2,711	
累計CF（現在価値）			-2,849	-5,894	-9,115	-12,492	-15,804	-19,052	-22,136	-25,056	-27,812	-30,404	-32,832	-35,096	-37,196	-39,132	-40,904	-42,512	-43,956	-45,236	-46,351	-47,301	

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

### (3) 町民への町内SS利用促進策の展開

- 町内SSの維持を図るためには、町民への町内SS利用促進を展開することが必要である。
- 利用促進にあたっては、**まずは官民連携により、町内SSを支えるという町民意識の醸成・啓発や、定期的な利用促進策の検討の場の設置、町民の利便性向上に向けた情報交換の場の設置などが考えられる。**
- また、燃料供給不安に対する長期的な政策コストの見通しを踏まえながら、例えば、油類の販売にあたり「町民会員」の仕組みを作り、会員価格による販売や、売掛販売、各種インセンティブ等により、顧客の囲い込みを図ることなども考えられる。
- また、配達と生活福祉の連携、生活関連サービスとの複合化等、住民サービスの一部をSSに委託する等により、SSの利便性向上と油外売上増を図ることなども考えられる。

(参考) 町民価格での提供にあたり会員カードを  
発行 (現金会員、掛け会員)



(参考) 奈良県川上村のケース 会員募集チラシ

伊藤田エネクス特約店 かわかみSS 村内でガソリン・灯油を買えば、雇用もお金も…。  
価格・品質・サービスを頑張ります!

新規村民VIP会員ご入会  
キャンペーン!!

お得な村民限定  
「現金カード」

便利な口座引落し会社の請求書払い  
「掛けカード」

新規ご入会で もれなく  
プレゼント!  
砂糖 (1kg)

3/15(水)~井上石油で新規会員入会受付中!!

伊藤田エネクス特約店 かわかみサービスステーション 川上村人地490(営業時間7:30~19:00) TEL:52-0715

(参考) 奈良県川上村のケース  
広報かわかみに掲載された案内文

#### 「村民特売デー」を実施します!

6月から毎週金曜日は、「村民特売デー」を開催します。現金通常3円引きのところ、毎週金曜日はさらに1円引き!(配達を除く)どうぞご利用ください。  
土曜日・祝日も営業しています。日曜日のみお休みです。

#### 【問い合わせ先】

かわかみSS TEL 52-0715  
店長: いわた  
スタッフ: かめい・うえひら

※これらの事例は、町民の利用促進策に関する他自治体の取り組みを紹介するものであり、当町における導入を前提としたものではない。

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

### (4) 災害時を想定した燃料備蓄拠点の整備

#### ○循環備蓄を考慮したタンク容量及び施設形態の検討

- 備蓄量の確保、コスト、将来の融通性（移転等のしやすさ）を踏まえ、以下の4つのケースを想定する。  
※各案の備蓄規模は、前述（31p）の目標備蓄量を下回らない範囲で、最も近似する実際のタンク製品容量ラインナップに基づき設定

#### **A案：地上タンクで目標備蓄量を確保し、町による自家用給油所と既存SSの小口配送拠点として燃料循環を行うケース**

【備蓄規模】★ガソリン：18KL ★灯油：15KL ★軽油：36KL

【施設形態と循環方法】ガソリンは町の自家用給油所、灯油・軽油は既存SSの小口配送拠点（貯蔵所）として利用

- ✓ ガソリンはコンテナ型地上タンク、灯油・軽油はそれぞれコンボルト型地上タンクの設置を想定・・・整備コスト5000万円以上
- ✓ 灯油については、0.5KLローリーが月5回程度積込みを行えば、6箇月で循環することになる（0.5KL×5回×6箇月＝15KL）
- ✓ 軽油については、既存SSの軽油の配達販売分（173KL/年）を当該拠点で積込を行えば、概ね2箇月半程度で循環することになる

#### **B案：地上タンクで最低限の備蓄量を確保し、町による自家用給油所として燃料循環を行うケース**

【備蓄規模】★ガソリン：5KL ★灯油：5KL ★軽油：8KL

（当面の備蓄として、ガソリン、灯油は、町民1日分の需要量、軽油は国道啓開の1日分＋防災センター発電機分）

【施設形態と循環の考え方】全油種とも、町の自家用給油所として利用

- ✓ 各油種ごとに分室した、コンテナ型地上タンクの設置を想定（1基）・・・整備コスト約2500万円
  - ✓ 公用車、ごみ収集車、消防車両等の給油により循環（ガソリン0.5KL/月以上、軽油0.7KL/月以上）
- ※最低限の備蓄量を確保した上で、状況に応じてコンテナ型地上タンクを増設

#### **C案：地上タンクで目標備蓄量を確保し、町による自家用給油所として燃料循環を行うケース**

【備蓄規模】★ガソリン：18KL ★灯油：15KL ★軽油：36KL

【施設形態と循環方法】全油種とも、町の自家用給油所として利用

- ✓ 各油種ごとに、コンテナ型地上タンクの設置を想定（計4基）・・・整備コスト約1億円
- ✓ 公用車、ごみ収集車、消防車両等の給油により循環（ガソリン3KL/月以上、軽油6KL/月以上）

#### **D案：地下タンクで目標備蓄量を確保し、町による自家用給油所として燃料循環を行うケース**

【備蓄規模】★ガソリン：18KL ★灯油：15KL ★軽油：36KL

【施設形態と循環方法】全油種とも、町の自家用給油所として利用

- ✓ 地下にタンク2本を埋設・・・整備コスト7～8千万円
- ✓ 公用車、ごみ収集車、消防車両等の給油により循環

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

	タンク形態、タンク容量と油種	概算整備コスト	ポイント・留意点
<b>A案</b> 備蓄◎ コスト△ 融通性△	<p>&lt;コンテナ型地上タンク（給油所）&gt; 18KLタンク（ガソリン）×1基 （約2500万円）</p> <p>&lt;コンポルト型地上タンク（貯蔵所）&gt; 15KLタンク（灯油）×1基 （タンクのみ約1000万円） 36KLタンク（軽油）×1基 （タンクのみ約1500万円）</p> <p>※その他 運搬費、据付費、設計費、土木工事費、配管敷設工事費等が必要となる</p>	5000万円以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標備蓄量が確保される（ただし将来的に過大となる可能性あり）</li> <li>灯油軽油の小口配送拠点として利用するにあたっては、既存SSの協力・理解と運営方策の協議・調整が必要</li> <li>既存SSが被災した際は、ガソリンのみ一般向け給油所として利用可能</li> <li>すべて地上タンクであり、移設可能</li> <li>特にコンテナ型タンクは容易に移設可能</li> </ul>
<b>B案</b> 備蓄△ コスト◎ 融通性◎	<p>&lt;コンテナ型地上タンク（給油所）&gt; 18KLタンク（※）×1基 ※ガソリン5、灯油5、軽油8 （約2500万円）</p>	2500万円程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>最低限の備蓄量を確保（状況に応じて増設）</li> <li>各油種とも町の自家用給油所として利用</li> <li>既存SSが被災した際は、全油種対応の一般向け給油所として利用可能</li> <li>コンテナ型地上タンクであり、容易に移設可能</li> </ul>
<b>C案</b> 備蓄◎ コスト× 融通性◎	<p>&lt;コンテナ型地上タンク（給油所）&gt; 18KLタンク（ガソリン）×1基（約2500万円） 18KLタンク（灯油）×1基（約2500万円） 18KLタンク（軽油）×2基（約5000万円）</p>	1億円程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標備蓄量が確保される（ただし将来的に過大となる可能性あり）</li> <li>各油種とも町の自家用給油所として利用</li> <li>既存SSが被災した際は、全油種対応の一般向け給油所として利用可能</li> <li>すべてコンテナ型地上タンクであり、容易に移設可能</li> </ul>
<b>D案</b> 備蓄◎ コスト× 融通性×	<p>&lt;地下タンク&gt; 20KLタンク（灯油）×1基 40KLタンク（ガソリン、軽油）×1基</p>	7000 ～8千万円程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標備蓄量が確保される（ただし将来的に過大となる可能性あり）</li> <li>各油種とも町の自家用給油所として利用</li> <li>既存SSが被災した際は、全油種対応の一般向け給油所として利用可能</li> <li>地下タンクであるため、漏洩検査等の定期メンテナンスが必要になるとともに、廃止時は解体撤去埋戻し等の工事費が必要（1000万円以上）</li> </ul>

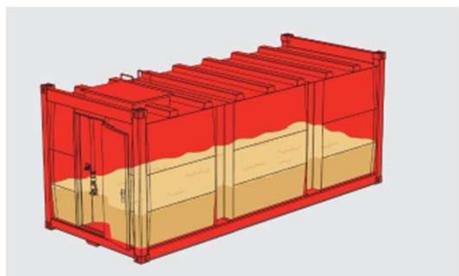
### ○施設形態を踏まえた運営方法の検討について

- 各施設とも、町がその施設・設備を保有しつつ、町内の各既存事業者の利益を損なわないように、運営は町内の各既存事業者へ委託等を行うことを想定する。
- 町による自家給油所については、災害時の各公的機関の公用車や緊急車両等の燃料確保も考慮しながら、その運営形態を検討する。
- 具体的な運営方法等については、望ましい施設形態の検討とあわせて、今後の関連保安規制の動向、コストの詳細な検討等を踏まえて、町内の各既存事業者や石油組合と十分に協議の上、整備・導入の時期も含め引き続き検討する。

## 参考：地上型タンクのイメージ

### 参考：仮設コンテナ形態の計量機一体型の地上型タンクのイメージ

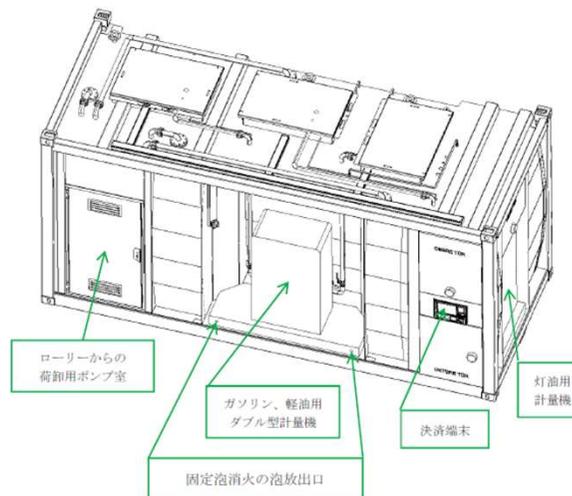
- 計量機一体型であり、給油所として利用可能
- 仮設コンテナ形態の地上タンク式SS。ISO規格の海上コンテナ仕様のタンクコンテナ形態であり、移設が容易
- 地下漏洩検査不要



← 図 1



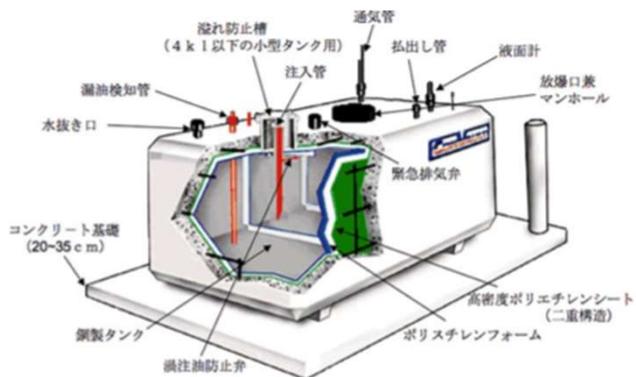
- ガソリンタンク室
- 軽油タンク室
- 灯油タンク室
- 荷卸用ポンプ室
- ガソリン・軽油 計量機室
- 灯油 計量機室
- 固定泡消火設備室/発電機室
- 電気制御室 (配電盤、決済端末など)
- 漏洩検知装置



出典：平成30年度SS過疎地(自治体)向け仮設コンテナ給油所技術検証報告書

### 参考：コンボルト型地上タンクの貯蔵所のイメージ

- 津波対策等による強化可能
- タンクの地下漏洩対策不要
- 給油所として利用する場合は配管工事、計量機設置工事等が必要



出典：経済産業省「平成28年度SS過疎地実態調査報告書」

## 4. 西伊豆町における燃料供給体制維持方策

### ● 地区ごとの燃料供給機能の維持・確保

- ✓ 現在SSが立地している宇久須地区、仁科地区においては、既存のSSが引き続き地域の燃料供給拠点として維持できるよう、町民の利用促進等を官民連携により展開していく。
- ✓ 現在SSが立地していない安良里地区、田子地区、大沢里地区においては、燃料供給不安を解消する供給機能確保について検討する。

### ● 災害時を想定した燃料備蓄の確保

- ✓ 現在の3箇所のSSは、引き続き町民の燃料供給インフラとして、一層の利用を促進しつつ維持を図っていくが、これらのSSはいずれも浸水想定区域内に立地していることから、浸水想定区域外での、災害時を想定した燃料備蓄の確保を図る。

### ● 災害時に備えた燃料備蓄

- 浸水想定区域外で、町内各地区へのアクセスがしやすい、安良里地区又は田子地区の国道136号沿いに、災害時を想定して燃料備蓄拠点を整備

#### <導入施設・設備・タンク容量のケース案>

#### ○A案：地上タンクで目標備蓄量を確保

- 自家給+小口配送拠点（計69KL）

#### ○B案：地上タンクで最低限の備蓄量を確保

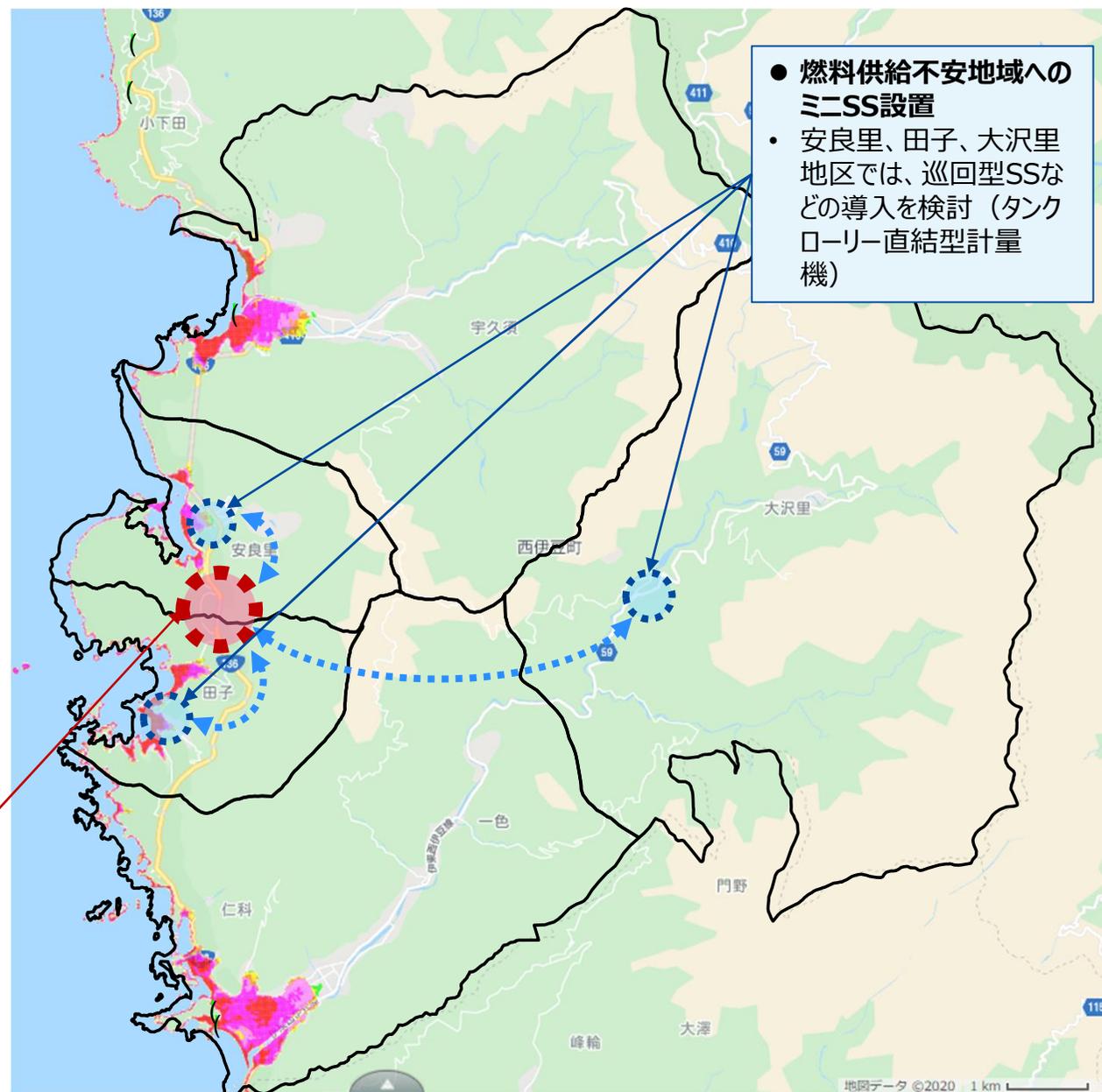
- 自家給（計18KL）

#### ○C案：地上タンクで目標備蓄量を確保

- 自家給（計72KL）

#### ○D案：地下タンクで目標備蓄量を確保

- 自家給（計60KL）



### ● 燃料供給不安地域へのミニSS設置

- 安良里、田子、大沢里地区では、巡回型SSなどの導入を検討（タンクローリー直結型計量機）

## 5. 燃料供給体制維持のアクションプラン

	主体	2020	2021	2022	～	2025	～	2030	～	
災害用備蓄拠点の整備										
検討・計画・設計・整備	西伊豆町	関連保安規制の動向、事業者等の調整等を行いながら推進 ----->								
開業・運営	民間	管理・運営は民間への委託等を想定 ----->								
巡回型SS等の導入										
検討・計画	西伊豆町	具体的ルート、運営方策の検討 ----->								
整備・導入	町or民間	既存SSの営業状況、存続状況を見ながら整備・導入 ----->								
町民利用促進策										
町民運動の企画・展開	西伊豆町	検討	実施（目標と期限を持って実施） ----->							
その他複合化支援等	西伊豆	検討	実施（目標と期限を持って実施） ----->							

※各方策の具体的な導入時期、導入方法については、現在、国において検討・協議されている関連保安規制の緩和、関連技術の導入等の動向を見ながら、採算性も含めて、詳細な検討・精査を行う。

※新たな燃料供給拠点の整備にあたっては、整備による既存SSの売上への影響等を適切に考慮しながら、今後、具体的方策を検討する。

※各取り組みが実効的なものとなるよう、今後、住民ニーズ、事業者の経営状況等について適宜把握を行い、地域全体の燃料供給体制の現状と課題を随時把握していく。

西伊豆町SS過疎地対策計画

令和2年2月

(策定者) 西伊豆町防災課

(調査受託者) 株式会社価値総合研究所